

YAESU

The radio

144/430MHz

DUAL BAND FM TRANSCEIVER

STANDARD

FT-8800/H

取扱説明書



安全上のご注意

お使いになる前に

基本操作

メモリー操作

スキャン操作

各種の便利な機能

より高度な運用機能

パケット通信

セットモード

付録

当社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

正しくお使いいただくために、この「取扱説明書」をよくお読みください。

お読みになった後は、大切に保管してください。

この取扱説明書に記載の社名・商品名などは、各社の商標または登録商標です。

本機を使用するためには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です。

また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。

本機は日本国内専用ですので国外での使用はできません。

目次

安全上のご注意	4	より高度な運用機能	30
お使いになる前に	6	WiRES(ワイヤーズ)で交信する	30
オプション	6	オートマッチングレピーターシフト(ARS)機能	31
設置と接続	7	周波数ステップを変える	32
モバイルブラケットの取り付けかた	7	ビーブ音の“ON/OFF”	32
車載で使用する場合(例)	7	RFスケルチ機能	32
セパレーションキット		プログラムマルチキー機能	33
YSK-8900の取り付けかた	8	KEY2操作の切り換え	34
パネル面の説明	10	メモリーオンリーモード	34
ディスプレイの説明	12	スキップ設定	35
マイクロホンの説明	13	特定メモリースキャン設定	35
背面の説明	13	プライオリティ機能	36
基本操作	14	スイッチ類をロックさせる	37
オールリセット	15	PTTロック機能	37
メモリー操作	16	オートパワーオフ(APO)機能	37
メモリーに書き込む	16	タイム・アウト・タイマー(TOT)機能	38
メモリーリセット	17	ディママー調整	38
メモリーを呼び出す	18	ミュート機能	38
ホームチャンネルを呼び出す	18	DTMF機能	39
セミデュプレックスメモリー	19	内部/外部スピーカーの設定	40
メモリーチューン機能	19	CW IDの設定	40
メモリーの消去	19	クローン機能	41
メモリーバンク	20	パケット通信	42
ハイパーメモリー	22	1200bpsで通信する場合	42
スキャン操作	24	9600bpsで通信する場合	42
スキャンをする	24	セットモード	43
メモリーバンクリンクスキャン	24	セットモード一覧表	43
プログラマブルスキャン	25	セットモードの動作一覧表	44
プログラマブルメモリースキャン(PMS)機能	25	セットモードリセット	44
各種の便利な機能	26	付録	50
スマートサーチ機能	26	オプションのMH42 _{66US} を使用する	50
トーンスケルチ機能	27	バンド区分	51
トーン周波数サーチ機能	27	アマチュア無線局免許申請書の書き方	52
DCS(デジタルコードスケルチ)機能	28	故障かな? と思ったら	54
DCSコードサーチ機能	28	アフターサービスについて	55
ARTS(アーツ)機能	29	定格	56
		索引	57

付属品

取扱説明書(本書)	1	電源コード	
保証書	1	FT-8800H(15Aヒューズ付)	1
マイクロホン(MH48A6JA)	1	FT-8800(10Aヒューズ付)	1
モバイルブラケット(MMB-36)		予備ヒューズ	
(取り付けビス一式を含む)	1	15Aヒューズ(FT-8800H)	2
セパレーションキット(YSK-8900)	1	10Aヒューズ(FT-8800)	2

- 保証書に、お買い上げの販売店名とお買い上げ日が記入されていることを、ご確認ください。
- 不足品がある場合には、お買い上げの販売店にお申し出ください。

特 長

- スーパーDX機能搭載！** 15 ページ
弱い信号をノイズの中から浮かび上がらせ、今までにない高感度でクリアな受信を体験することができます。
- 2波同時受信機能搭載！** 14 ページ
2波同時受信ができ、さらに2波同一バンド受信が可能です。
- 同時送受信機能搭載！** 15 ページ
違う周波数帯でサブバンドを受信しながらメインバンドで送信する同時送受信ができます。
- 操作機能を2系統用意！** 14 ページ
左右の2つのバンドをそれぞれ独立して操作できます。また、使用頻度の高いスイッチだけをパネル面に配置し、シンプル操作を実現しました。
- メモリーを使用目的別に分類することができるメモリーバンクを搭載！** 20 ページ
左右のバンドで完全に独立したメモリーバンクには、メモリーチャンネルを、使用目的ごとのグループに分けて整理することができますので、数多くのメモリーチャンネルを、効率よく利用することが可能になりました。
- 便利なハイパーメモリー機能搭載！** 22 ページ
周波数のほかにメモリー番号、スキャン情報、ARTSやPRI情報、また一部のセットモード情報などの動作状態を一括に記憶することのできるハイパーメモリーを6チャンネル搭載しました。これにより、あたかも6VFOの感覚で使用することができます。さらにハイパーメモリー専用のスイッチを用意し、操作性も優れています。
- WiRESによるレピーターアクセス機能搭載！** 30 ページ
インターネットに接続して通信距離を飛躍的に拡大するWiRESシステムを利用することができます。

電波を発射する前に

アマチュア局は、自局の発射する電波が、テレビやラジオの受信に障害を与えたり、障害を受けているとの連絡を受けた場合は、ただちに電波の発射を中止して障害の有無や程度を確認してください。

《参考》無線局運用規則 第9章 アマチュア局の運用

第258条 アマチュア局は、自局の発射する電波が他の無線局の運用又は放送の受信に支障を与え、若くは、与える虞があるときは、すみやかに当該周波数による電波の発射を中止しなければならない。（以下省略）

障害が自局の電波によるものと確認された場合、無線機、アンテナ系を点検し障害に応じてお買い上げの販売店または、当社カスタマーサポートに相談するなどして、適切な処置を行ってください。

受信側に原因がある場合、障害対策は単に技術的な問題に止まらず、ご近所付き合いなどで、むずかしい場合もあります。

一般社団法人日本アマチュア無線連盟(JARL)では、電波障害の対策と防止についての相談窓口を開設しておりますので、対策にお困りの場合はご相談ください。

一般社団法人日本アマチュア無線連盟(JARL)

〒170-8073 東京都豊島区南大塚3-43-1 大塚HTビル6階




TEL: 03-3988-8754

安全上のご注意(必ずお読みください)



本機を安全に正しくお使いいただくために、必ずお読みください。

お客様または第三者の方が、この製品の誤使用・使用中に生じた故障・その他の不具合あるいはこの製品の使用によって受けられた障害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。




マークの種類と意味

- | | |
|---|--|
|  危険 | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。 |
|  警告 | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。 |
|  注意 | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容および物的障害のみの発生が想定される内容を示しています。 |





図記号の種類と意味

- | |
|--|
|  本機を安全にお使いになるために、行ってはならない禁止事項です。 |
|  本機を安全にお使いになるために、必ず守っていただきたい注意事項です。 |

危険

- | | |
|---|--|
|  車載でご使用になる場合には、運転者は走行中に各種の設定操作は絶対に行わないでください。
走行中に運転者が、本機のディスプレイに気を取られたり、操作に迷ったりすると大変危険です。走行中は、運転者は送受信操作以外の操作は絶対に行わないでください。 |  病院内や医療用電子機器の近くでは使用しないでください。
医療用電子機器に影響を与える恐れがあります。 |
| |  雷の気象情報がある場合は、早めにPWRスイッチを切り、電源コードとアンテナケーブルを本機から外してください。
雷によっては、火災や感電・故障の原因になります。 |

警告

- | | |
|--|--|
|  本機を改造しないでください。
また、本書に記載のない方法で分解しないでください。
火災や漏液・感電・故障の原因になります。 |  電源コードは直接、直流電源に接続してください。
電源ケーブルの延長や継ぎ足しは、火災や故障の原因になります。 |
|  指定された電源電圧以外の電圧では使用しないでください。
火災や感電の原因になります。 |  “煙が出ている”，“変な臭いがする”などの異常状態のまま使用すると、火災や故障の原因になります。
すぐにPWRスイッチを切り、本機を電源から外してください。煙や変な臭いなどが出なくなったことを確認の上、お買い上げいただきました販売店または当社カスタマーサポートにご連絡ください。 |

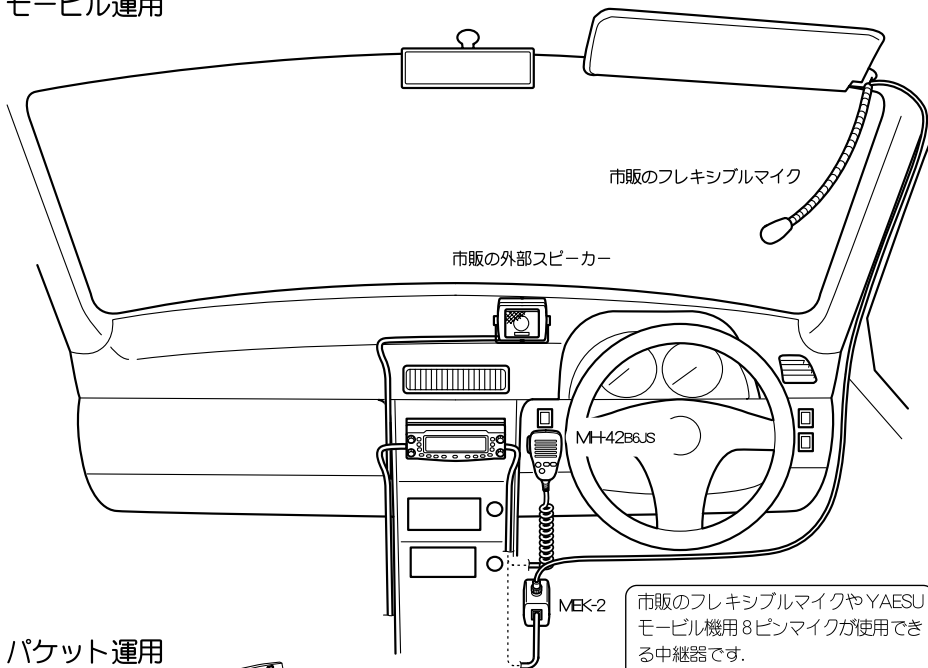
安全上のご注意 (必ずお読みください)

⚠ 注意

- ⊘ 本機を押し入や本棚などの、風通しが悪く狭い場所に押し込まないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。
- ⊘ 本機をぐらついた台の上や傾いた所などの不安定な場所に置かないでください。
落ちたり倒れたりして、ケガの原因になることがあります。
- ⊘ 本機をジュウタンや布団の上に置かないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。
- ⊘ 本機の上に重い物を置かないでください。
落ちたり倒れたりして、ケガの原因になることがあります。
- ⊘ 本機の上に花瓶・化粧品・コップなどの、水の入った容器を置かないでください。
こぼれたり中に入った場合、火災や故障の原因になります。
- ⊘ 本機の上にクリップなどの小さな金属物を置かないでください。
中に入った場合、火災や故障の原因になります。
- ⊘ 電源コードの上に重い物を載せたり、電源コードを無理に曲げたり引っ張ったりしないでください。
電源コードが傷つき、火災や故障の原因になります。
- ⊘ 無線中継装置の近くでは使用しないでください。
業務無線通信に、妨害を与える場合があります。
- ⊘ シンナーやベンジンなどでケースを拭かないでください。
ケースの汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
- ⊘ 本機を湿気やホコリの多い場所に置かないでください。
火災や故障の原因になります。
- Ⓜ 長期間ご使用にならない場合には、安全のため、PWRスイッチを切るとともに、本機から電源を外してください。
- Ⓜ 万一、内部に異物が入った場合には、すぐにPWRスイッチを切り、本機から電源を外してください。
そのまま使用すると、火災や故障の原因になります。
- Ⓜ 本機を移動させるときには、電源コードを電源から外すとともに、アンテナケーブルや周辺機器などを接続している全てのケーブルを外した上で行ってください。
- ⚠ 磁気カードやビデオテープなどは本機に近づけないでください。
キャッシュカードやビデオテープなどの内容が、消去される場合があります。
- ⚠ 本機を直射日光の当たる場所や熱器具の付近に置かないでください。
変形や変色などの原因になります。

お使いになる前に オプション

モバイル運用



市販のフレキシブルマイク

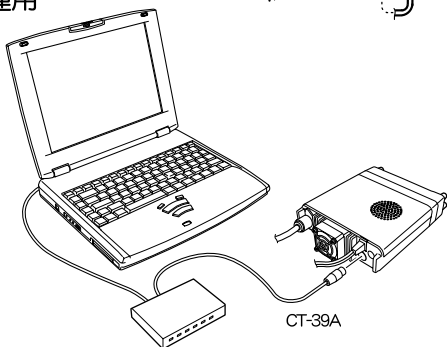
市販の外部スピーカー

MH-42B6JS

MEK-2

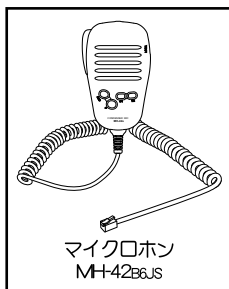
市販のフレキシブルマイクや YAESU モービル機用 8ピンマイクが使用できる中継器です。
注意: MEK-2を通して、付属の DTMF マイクロホン MH-48A6JA (またはオプションのマイクロホン MH-42B6JS) を接続すると、一部のプログラマブルキーが動作しないことがあります。

ポケット運用

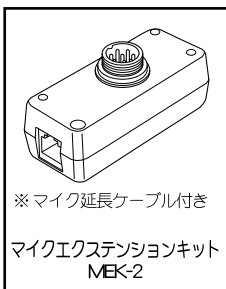


CT-39A

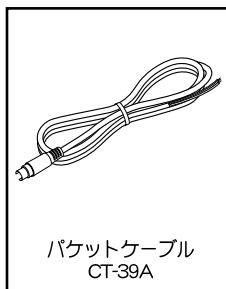
FT-8800/H の DATA 端子と TNC 間を接続するケーブルです (42 ページ参照)。
また、ケーブルを 2 本加工して接続するとクローンケーブルとして使えます (41 ページ参照)。



マイクロホン
MH-42B6JS



※マイク延長ケーブル付き
マイクエクステンションキット
MEK-2



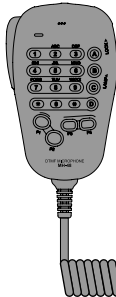
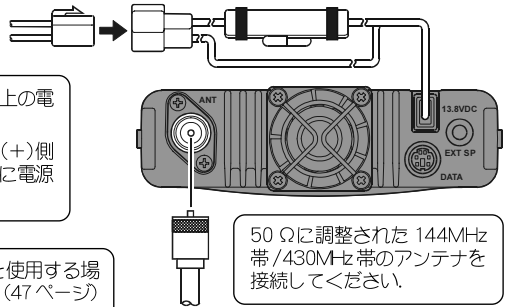
ポケットケーブル
CT-39A

※ 詳細はカタログをご覧ください。

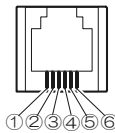
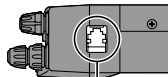
設置と接続

下図を参考にして、“アンテナ”、“電源”、“マイクロホン”を接続して下さい。

- ◎ 直流 13.8V、電流容量 15A(FT-8800は 10A)以上の電源に接続して下さい。
- ◎ 必ず付属の電源コードを使用し、電源のプラス(+)側端子に電源コードの赤線、マイナス(-)側端子に電源コードの黒線を接続して下さい。



オプションのMH+42B6JSを使用する場合はセットモード“24 MIC”(47 ページ)をMH-42にあわせてください。

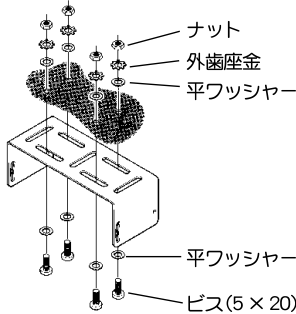


- | | |
|---------------|---------------|
| MH-48 ① : Sw2 | MH-42 ① : Sw2 |
| ② : Sw1 | ② : - |
| ③ : +9V | ③ : +9V |
| ④ : GND | ④ : GND |
| ⑤ : MC | ⑤ : MC |
| ⑥ : PTT | ⑥ : Sw1 |

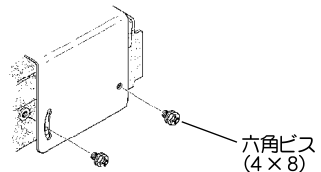
※ Sw1, Sw2 : (キーコントロール)

モバイルブラケット MMB-36 の取り付けかた

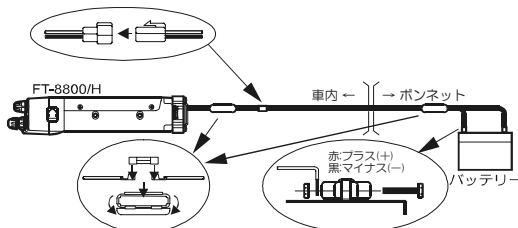
下図を参考にして、運転に支障のない場所に取り付けて下さい。



- ◎ 安全と操作性に配慮して下さい。
- ◎ 故障の原因になりますので、付属のビス以外は絶対に使用しないで下さい。



車載で使用する場合(例)



ヒューズの確認
FT-8800 : 10A
FT-8800H : 15A

- ◎ 車のボディにバッテリーのマイナス(-)電極が接続してある、マイナス設置の車でご使用ください。
- ◎ 12V型/バッテリーを使用している車でご使用ください。24V型/バッテリーを使用している車で使用するときには、お買い上げいただきました販売店または当社カスタマーサポートにお問い合わせください。

セパレーションキット YSK-8900 の取り付けかた

付属のセパレーションキット“YSK-8900”を使用すると、フロントパネルを本体から取り外して運用することができます。

注意

YSK-8900 の取り付けを行うときには、必ず電源を“OFF”にするとともに、電源コードも電源から外した状態で行ってください。

また、下記の事項を参考に、トランシーバーの設置に適した取付場所をあらかじめ見つけてから作業を開始してください。特に、延長ケーブルの長さが足りなくなならないよう、取付場所の決定には十分にご留意ください。

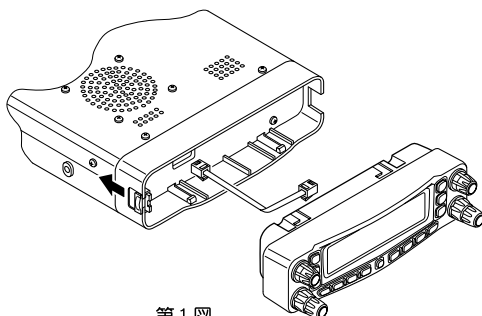
- ◎操作性に優れるとともに、運転の支障にならない場所
- ◎直射日光や温風などが直接当たらない場所
- ◎風通しの良い場所

さらに、各パーツの取り付けには、必ず指定されたサイズのビスおよびケーブルを使い、指定された方法で取り付けてください。

指定サイズ以外のビスおよびケーブルの使用や、誤った取り付けかたをすると、故障の原因になります。

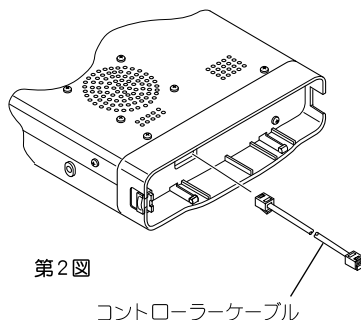
1. 第1図を参考に、無線機本体左側面のレバーを矢印の方向に押し、フロントパネルを左にスライドさせながら外し、同時に本体と接続しているケーブルも外します。

- 外したケーブルは、再び本体にフロントパネルを取り付けて使用する際に必要ですので、紛失しないよう保管してください。



第1図

2. 第2図を参考に、付属のコントローラーケーブルを本体のコントローラー端子に差し込みます。
3. 付属のモバイルブラケット“MMB-36”を使用して、あらかじめ決めておいた取付場所に無線機本体を取り付けます。

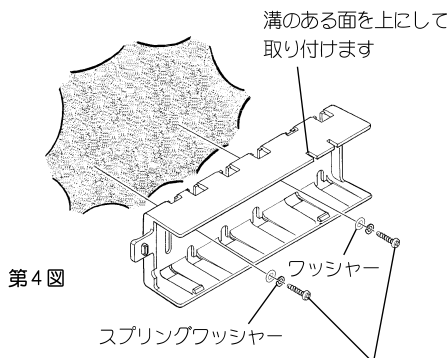


第2図

コントローラーケーブル

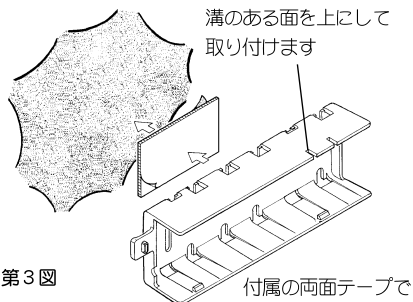
設置と接続

4. 第3図・第4図・第5図を参考に、あらかじめ決めておいた取付場所にパネルブラケットを取り付けます。

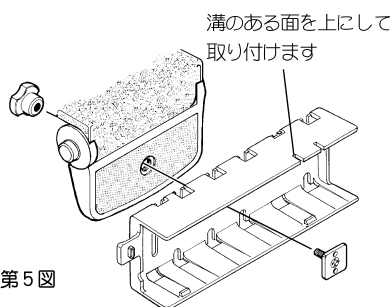


第4図

タッピングビスまたはビス
※ビスを使用して取り付ける際は、六角ナットを併用してください。



第3図



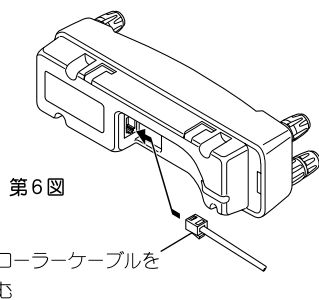
第5図

オプションのモービルコントローラブラケット
“MMB-62”に取り付ける場合

5. 第6図を参考に、付属のコントローラケーブルをパネルのコントローラ端子に差し込みます。
6. 第7図を参考に、パネルブラケットにフロントパネルを取り付けます。
7. 運転の支障にならないように、コントローラケーブルをきれいに配線し、YSK-8900の取り付けは終了です。

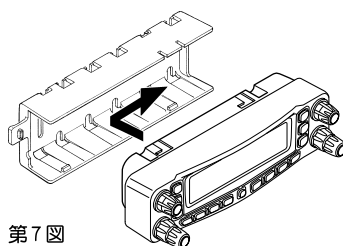
◎ 無線機本体をトランクなどに設置すると、受信音が聞こえなくなりますので、市販の外部スピーカー(4～16Ω, 推奨8Ω2W以上)の併用をお勧めします。

なお、スピーカーケーブルの長さが足りない場合には、付属のスピーカー延長ケーブルをご利用ください。



第6図

コントローラケーブルを
差し込む



第7図

パネル面の説明

ダイヤルツマミ

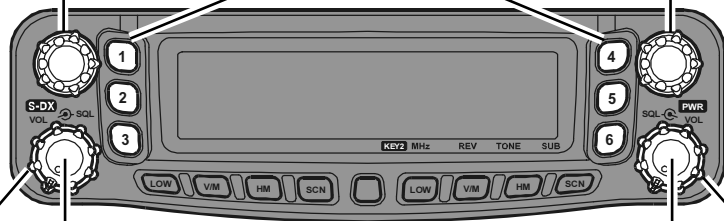
- ・ ツマミをまわすと左側に表示されている周波数帯の周波数を変えたり、メモリーチャンネルを選択することができます。
- ・ ツマミを押すと、左側に表示されている周波数帯をメインバンドにすることができます。
- ・ ツマミを0.5秒以上押すと周波数帯を切り換えることができます。
- ・ メインバンドの状態ではツマミを押してからツマミをまわすと、周波数が1MHzステップで変化します。

ダイヤルツマミ

- ・ ツマミをまわすと右側に表示されている周波数帯の周波数を変えたり、メモリーチャンネルを選択することができます。
- ・ ツマミを押すと、右側に表示されている周波数帯をメインバンドにすることができます。
- ・ ツマミを0.5秒以上押すと周波数帯を切り換えることができます。
- ・ メインバンドの状態ではツマミを押してからツマミをまわすと、周波数が1MHzステップで変化します。

ハイパーメモリーキー

- ・ 1～6のハイパーメモリーを呼び出します。
- ・ いずれかのキーを2秒以上押すと現在の運用状態をメモリーすることができます。



VOL ツマミ

- ・ 左側に表示されている周波数帯の音量を調節するツマミです。右にまわすほど音が大きくなります。
- ・ ツマミを押すと、スーパーDX機能が動作します。

VOL ツマミ

- ・ 右側に表示されている周波数帯の音量を調節するツマミです。右にまわすほど音が大きくなります。
- ・ 0.5秒以上押すと電源が入ります。再度1秒以上押すと電源が切れます。

SQL ツマミ

左側に表示されている周波数帯のSQL(スケルチ)ツマミです。

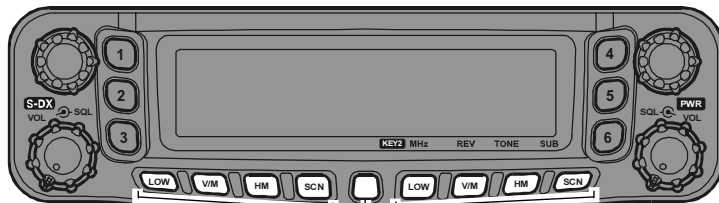
信号を受信していないときに聞こえる“ザー”というノイズが消える位置までまわします。スケルチレベルを上げるとノイズは消えやすくなりますが、弱い信号が入感しなくなることがありますので、必要に応じて調節してください。

SQL ツマミ

右側に表示されている周波数帯のSQL(スケルチ)ツマミです。

信号を受信していないときに聞こえる“ザー”というノイズが消える位置までまわします。スケルチレベルを上げるとノイズは消えやすくなりますが、弱い信号が入感しなくなることがありますので、必要に応じて調節してください。

パネル面の説明



左側のバンド専用キー

右側のバンド専用キー

SET キー

キー	キーを押す時間	動作															
LOW	0.5 秒以内	押すたびに、送信出力が 4 段階で切り換わります。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>HIGH</th> <th>MID1</th> <th>MID2</th> <th>LOW</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FT-8800H</td> <td>50W(144MHz 帯) 35W(430MHz 帯)</td> <td>20W</td> <td>10W</td> <td>5W</td> </tr> <tr> <td>FT-8800</td> <td>20W</td> <td>10W</td> <td>5W</td> <td>1W</td> </tr> </tbody> </table>		HIGH	MID1	MID2	LOW	FT-8800H	50W(144MHz 帯) 35W(430MHz 帯)	20W	10W	5W	FT-8800	20W	10W	5W	1W
		HIGH	MID1	MID2	LOW												
FT-8800H	50W(144MHz 帯) 35W(430MHz 帯)	20W	10W	5W													
FT-8800	20W	10W	5W	1W													
	0.5 秒以上	メモリーチャンネルに付けた名前を表示します。															
V/M	0.5 秒以内	押すたびに VFO モード*1 とメモリーモード*2 が切り換わります。															
	0.5 秒以上	VFO モードのときはスマートサーチスキャンが開始します。 メモリーモードのときは、メモリーバンクを選択 (BANK 1 ~ BANK10) することができます。															
HM	0.5 秒以内	VFO (またはメモリー) モードとホームチャンネルが切り換わります。															
	0.5 秒以上	プライオリティ機能が動作します。															
SCN	0.5 秒以内	VFO モードのときはプログラマブルスキャンを開始します。 メモリーモード時は通常のメモリスキャンを開始します。															
	0.5 秒以上	VFO モードのときはプログラマブルスキャンの動作を設定 (BAND, +-1MHz, +-2MHz, +-5MHz, ALL, PMSxx*から選択) することができます。 * PMSxx は, “L1/U1 ~ L10/U10” にメモリーされている場合のみ表示されます。 メモリーモードのときは、メモリーチャンネルの内容を一時的に変更することができるメモリーチューン機能が動作します。															
SET	0.5 秒以内	セットモードになります。															
	0.5 秒以上	メモリー書き込みモードになります。															

*1 VFO モードとは、ダイヤルつまみで周波数を直接選択できる状態をいいます。

*2 メモリーモードとは、よく使用する周波数をメモリーに書き込み、そのメモリーを呼び出して使用している状態をいいます。

◎ 左右どちらのバンドでも、144MHz 帯、430MHz 帯の運用を行うことができます。メインバンドに指定すると送信することができます。

◎ メインバンドとサブバンドを“同時に受信”することができます。

◎ 両バンドを同じ周波数帯(左右共に“144MHz 帯”または“430MHz 帯”)にし、“2 波同一バンド受信”をすることができます。

ディスプレイの説明



お使いになる前に

マイクロホンの説明

周波数を変えたり、メモリーチャンネルを選択します。

送信(PTT)スイッチです。押しながら話し、放すと受信します。

送信(PTT)以外のスイッチ / キーを動作しないようにします。

各キーのランプスイッチです。

直接周波数の入力、送信時は WIRES をアクセスする DTMF を送出することができます。

0~9	・テンキー入力
*、#	・送信時任意の DTMF を入力
A	・送信時 DTMF A を入力
B	・送信時 DTMF B を入力
C	・送信時 DTMF C を入力
D	・送信時 DTMF D を入力

● 押すたびに、送信出力が4段階で切り替わります。

	FT-8800H	FT-8800
HIGH	50W(144MHz帯) 35W(430MHz帯)	20W
MID1	20W	10W
MID2	10W	5W
LOW	5W	1W

● メモリーモード時に 0.5 秒以上押すと、メモリーに登録した名前表示を周波数表示にします。

● 押すたびにメインバンドとサブバンドが切り替わります。

● 0.5 秒以上押すと、周波数帯を切り替えることができます。

押すたびに、トーンスケルチャやDCSの機能を選択することができます。

```

    ENC → ENC DEC
    OFF ← DCS ← REV TN
  
```

【P1】 【P2】 【P3】 【P4】 の各キーは、押したときの動作を変更することができます(33ページ参照)。また、MH42_{6S}(オプション)の【ACC】 【P】 【P1】 【P2】 の各キーも、押したときの動作を変更することができます(50ページ参照)。

● 押すたびに VFO モードとメモリーモードが切り替わります。

● VFO モード時に 0.5 秒以上押すと、スマートサーチ機能が開始します。

● メモリーモード時に 0.5 秒以上押すと、メモリーバンクを選択することができます。

お使いになる前に

背面の説明

50W モデルの場合、送信中はファンが回転します。また送信を終了しても約30秒間は回転します。受信中に温度が上昇した場合にもファンが回転します。

インピーダンスが 4 ~ 16 Ω のスピーカーを接続します。

50 Ω に調整されたアンテナを接続します。

パケット通信時にはTNCを、クローン時には他の FT-8800/H を接続します。

! EXT SP 端子には、イヤホンやヘッドホンは接続しないで下さい。聴力障害の原因になることがあります。

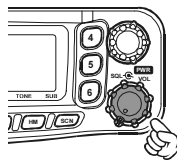
※イラストは 50W モデル (FT-8800H) です。

基本操作

電源を入れる

右側のVOL ツマミを 1 秒以上押すと電源が入ります。
左側の周波数表示部には、約 2 秒間電源電圧が表示されます。

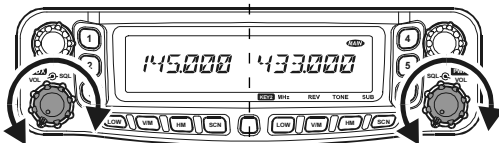
- この状態で 144MHz 帯と 430MHz 帯を同時に受信します。
- 再度、右側のVOL ツマミを 0.5 秒以上押すと、電源が切れます。



音量を調節する

VOL ツマミをまわして音量を調節します。

- 左側に表示されている周波数帯の音量は左側のVOL ツマミで調節し、右側に表示されている周波数帯の音量は右側のVOL ツマミで調節します。

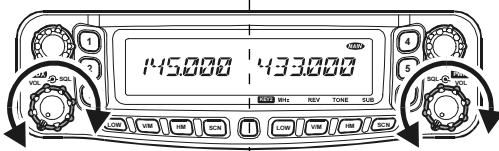


右にまわすほど音量が大きくなります

スケルチを調節する

SQL ツマミでスケルチを調節する。

- 信号を受信していないときの“ザー”というノイズが消える位置までまわします。右にまわすほどスケルチレベルが深くなりノイズは消えやすくなりますが、弱い信号が入感しなくなる場合がありますので、必要に応じて調節してください。
- 左側に表示されているバンドのスケルチは左側のSQL ツマミで、右側に表示されているバンドのスケルチは右側のSQL ツマミで調節します。



右にまわすほどスケルチレベルは深くなります

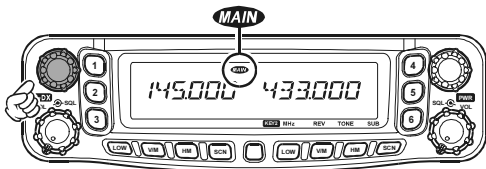
メインバンドを選択する

操作したいバンドのダイヤルツマミを押し、メインバンドを選択します。

“MAIN” が表示されている周波数帯が、メインバンドです。

パネル面のキー操作や、付属のマイクロホンで周波数の変更操作や送信操作などを行いたい周波数帯をメインバンドに選択します。

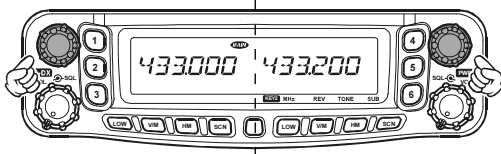
- “MAIN” が表示されていないバンドを「サブバンド」と呼びます。
- メインバンドでは“送信と受信”，サブバンドでは“受信”を行うことができます。
- メインバンドとサブバンドを“同時に受信”することができます。



周波数帯を切り換える

変更したいバンドのダイヤルツマミを 0.5 秒以上押して、運用バンドを切り換えます。

- “144MHz 帯” ⇄ “430MHz 帯” ⇄ “144MHz 帯” と交互に切り変わります。
- 両バンドを同じ周波数帯(左右を“144MHz 帯”または“430MHz 帯”)にし、“2 波同一バンド受信”をすることができます。



周波数をあわせ受信する

ダイヤルツマミで周波数をあわせませす。

- メインバンドの周波数は、マイクロホンの【UP】【DNW】スイッチでも、あわせることができます。
- メインバンドのダイヤルツマミを押し、次にダイヤルツマミをまわすと、1MHzステップで周波数が変わります。再度メインバンドのダイヤルツマミを押すか、約5秒間操作しないと、通常の周波数変化量に戻ります。



- ◎ 付属のDTMF マイクロホン“MH48A6JA”のテンキーでもメインバンドの周波数をあわせることができます。例：145.160MHzにあわせる場合は、マイクロホンのテンキーを1⇒4⇒5⇒1⇒6⇒0と押します。

受信感度をアップする(スーパーDX(S-DX)機能)

受信部高周波増幅回路と低周波増幅回路を微弱電波受信に適した特性に最適化することにより、弱い信号をノイズの中から浮かび上がらせることができます。

左側のVOL ツマミを押します。

メインバンド側のディスプレイに“S-DX ON”が2秒間表示され、メインバンドとサブバンドのメモリーチャンネル表示部分に“-”が表示されます。

左側のVOL ツマミをもう一度押すと、スーパーDX機能がオフ(ディスプレイに“S-DX OFF”が2秒間表示)になり通常の受信感度に戻ります。



送信をする

1. 右側または左側のダイヤルツマミを押して、送信したいバンドに“MAIN”を表示させます。
2. 話をしたい相手と周波数をあわせませす。
3. マイクロホンのPTTスイッチを押しながら話します。
送信中はメインバンド側のディスプレイに“TX”が表示されます。
4. PTTスイッチをはなすと、受信に戻ります。

○ サブバンドを受信しながらメインバンドで送信する“同時送受信”ができます。

○ サブバンドとメインバンドが同じ周波数帯の場合は、サブバンドの音を自動的に消します(ミュート機能)。

- ◎ レピータ局(430MHz帯)の周波数にあわせて送信するだけで、レピータを使用した交信を行うことができます(ARS機能: Automatic Repeater Shift)。また、ARS機能を“OFF”にすることができます(31ページ: ARS機能)。

- ◎ レピータ運用時に[REV](KEY2設定時: 34ページ参照)を押すと、一時的に送信周波数と受信周波数を入れ換えることができます(リバース)。リバースが動作しているときはディスプレイに“-”が点滅します。解除はもう一度[REV]を押します。

- ◎ 連続送信などの誤動作を防止するために、約6分が経過すると(送信を中止する約10秒前になると「ピロピロピロ」と警告音が鳴ります)自動的に受信状態に戻ります(38ページ: TOT機能)。

- 送信中急激な温度上昇が起きると過熱防止回路が働き、「ピピピピ」と警告音とディスプレイに“-HEAT-”を表示し、送信出力が自動的にローパワーになります。また、過熱防止回路が働いているときにさらに送信を続けると、強制的に受信状態に戻ります。セット内部の温度が下がるまで本機をよく休ませてから送信してください。

オールリセット

1. 左側の[V/M]を押しながら電源を入れます。
2. 右側のダイヤルツマミをまわして「F-5 ALL RESET」選択します。
3. [SET]を押すと、設定した内容を初期値(工場出荷時の状態)に戻すことができます。ディスプレイのS/POメーターが進行状況を示します。

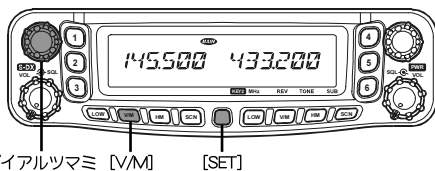
- メモリーした内容(ハイパーメモリーも含む)や、セットモードで設定した値などはすべて初期化されます。
- オールリセットを行った後は、セットモード“24MC”の設定をご使用になるマイクに合わせて変更してください(47ページ参照)。

メモリー操作

メモリーに書き込む

よく使用する周波数を記憶させることができるメモリーチャンネルが、左右のバンドにそれぞれ512チャンネル(合計1024チャンネル)あります。

1. **ダイヤルツマミを押してメインバンドを選びます。**
2. **[V/M]を押してVFOモードにし、記憶させたい周波数にあわせて。**
3. **[SET]を0.5秒以上押すと、空チャンネルが表示され点滅します。**



○メモリーチャンネルが点滅中に何の操作もせず約10秒間放置すると書き込み操作を解除します。

○ダイヤルツマミまたは、マイクロホンの【UP】【DWN】スイッチで希望のメモリーチャンネルを選択することができます。

○メモリーチャンネルを選択中に、ダイヤルツマミを押してダイヤルツマミをまわすと2桁目のチャンネル番号が変わり早送りすることができます。

4. **メモリーチャンネルに名前を付ける場合は[SET]を0.5秒以上押しします。**

○ディスプレイに約2秒間“MEM-IN”と表示され、名前登録表示に切り換わります。

○名前を付ける必要がない場合は、[SET]を押すと、メモリーの書き込みが終了します。

5. **ダイヤルツマミをまわして、メモリーチャンネルに付けたい名前の一文字目を表示させます(17ページ参照)。**

○マイクロホンの【UP】スイッチを押すとカーソルの位置を一文字送ることができます。

○マイクロホンの【DWN】スイッチを押すとカーソルの位置を一文字前に戻すことができます。

○メインバンド側の[SCN]を押すと、点滅している文字を消去します。

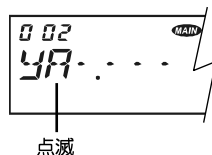
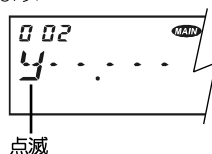
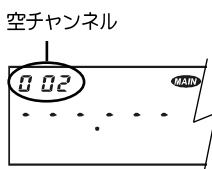
○マイクロホンのPTTスイッチを押すと書き込み操作を解除します。

6. **メインバンド側のダイヤルツマミを押すと、次に表示する文字を選択することができます。**

7. **操作5.と操作6.を繰り返して、名前を入力します(最大6文字)。**

8. **[SET]を押すと、メモリーの書き込みが終了します。**

ディスプレイに“MEM-IN”と表示されます。



- ◎メモリーチャンネルとホームチャンネル(18ページ)は、運用周波数やメモリーの名前表示以外に、運用モード、レピータ情報、トーンスケッチ/DCS情報、メモリースキップ情報、送信出力なども同時に記憶することができます。
- ◎あらかじめ左側バンドのメモリーチャンネル1に“145.000MHz”，右側バンドのメモリーチャンネル1には“433.000MHz”が書き込まれています。
- ◎メモリーチャンネル以外に割り当てられているL1～L10およびU1～U10は、プログラマブルメモリースキャン(PMS)用のメモリーチャンネルです(25ページ：プログラマブルメモリースキャン機能)。
- ◎メモリーチャンネルを、使用目的ごとのバンク(グループ)に分けて整理することができます(20ページ：メモリーバンク)。
- ◎すでにメモリーされているチャンネルには、周波数が表示されます。
- ◎すでにメモリーされているチャンネルに、名前を付けることができます(セットモード26NAME)。
- ◎同じメモリーチャンネルに送受信別の周波数をメモリーすることができます(19ページ：セミデュプレックスメモリー)。
- ◎メモリーした周波数を消去することができます(19ページ：メモリーの消去)。

注意

メモリーした内容は、誤操作や静電気または電氣的雑音を受けたときに消失する場合があります。また、故障や修理の際にも消失する場合がありますので、メモリーした内容は、必ず紙などに控えておくようにしてください。

メモリーに書き込む

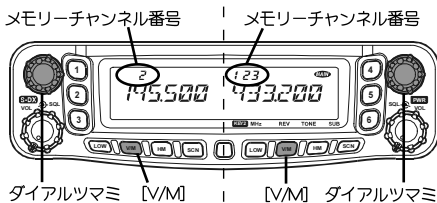
メモリーチャンネルにつけることができる文字・記号												
スペース	1	^	o	5	%	8	'	!	*	+	,	
--	.	/	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
!	,	2	=	3	P	Q	R	S	T	U	V	F
G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S
T	U	V	W	X	Y	Z	[]	^	_	/	

メモリーリセット

1. 左側の[V/M]を押しながら電源を入れます。
ディスプレイに「F-1 SETMOD RESET」が表示されます。
2. 右側のダイヤルツマミをまわして「F-3 MEMORY RESET」選択します。
3. [SET]を押すと、メモリーした内容だけを初期化することができます。
ディスプレイのS/POメーターが消去の進行状況を示します。

メモリーを呼び出す

1. [V/M]を押してメモリーモードにします。
2. ダIALツマミで希望のメモリーチャンネルを選びます。
3. [V/M]を押すと、VFOモードに戻ることができます。



- ◎ メインバンド、サブバンドそれぞれ独立してメモリーを呼び出すことができます。
- ◎ メモリーモードのときに [SCN] を 0.5 秒以上押すと、メモリーの内容を一時的に変更することができます (19 ページ: メモリーチューン機能)。
- ◎ メインバンドでメモリーモードのときは、ダイアルツマミを押すと、10桁単位で登録されているメモリーチャンネルに移動することができます。
- ◎ メインバンドのメモリーチャンネルは、マイクロホンの [UP] [DWN] スイッチで選択することができます。
- ◎ メモリーに名前を付けたときには、周波数の代わりに名前を表示します。周波数を確認したいときは、マイクロホンの [P2] (オプションのMH48A6Jでは [P4]) を 0.5 秒以上押すと周波数を表示します。
- ◎ スーパーDX機能が動作中、メインバンドとサブバンドのメモリーチャンネル表示部分に“-”が表示されます(例: 2チャンネルの場合“- 2”, 123チャンネルの場合“- 123”)。
- ◎ サブバンドがメモリーモード(またはホームチャンネル)のときに“インターネットリンク機能(またはスーパーDX機能とインターネットリンク機能)”を使用すると、“i-net”(インターネットリンク機能動作中)または“-i-net”(スーパーDX機能とインターネットリンク機能動作中)が表示されます。また、サブバンドのダイアルツマミでメモリーチャンネルを選択すると、約2秒間メモリーチャンネルを表示して、その後“-i-net”または“-i-net”の表示に戻ります。

ホームチャンネルを呼び出す

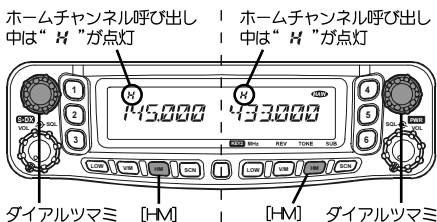
よく使用する周波数を記憶させることができ、ワンタッチで呼び出すことができる“ホームチャンネル”が、左右のバンドの144MHz帯および430MHz帯に、それぞれ1チャンネルずつ(合計4チャンネル)あります。

1. ダIALツマミを 0.5 秒以上押して、運用したい周波数帯に切り換えます。

各周波数帯のホームチャンネルは右下表を参照してください。

2. [HM]を押します。

再び[HM]を押すと、ホームチャンネルに移る前の周波数(またはメモリーチャンネル)に戻ります。



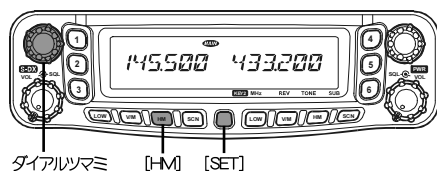
- ◎ ホームチャンネルを呼び出し中に、マイクロホンの [UP] [DWN] スイッチまたは、ダイアルツマミをまわすと、ホームチャンネルの周波数がVFOにコピーされ、VFOモードで運用することができます。

周波数帯	周波数
144MHz帯	145.000MHz
430MHz帯	433.000MHz

■ホームチャンネルの周波数を変える

1. ダIALツマミを押してメインバンドを選び、記憶させたい周波数にあわせませす。
2. [SET]を 0.5 秒以上押します。
3. メインバンド側の[HM]を押して終了です。

ディスプレイに約2秒間“HOME IN”が表示され、ホームチャンネルの周波数を書き換えます。



セミデュプレックスメモリー

同じメモリーチャンネルに送受信別の周波数を記憶させることができます。

1. ダイアルツマミを押してメインバンドを選びます。
2. [V/M]を押してVFOモードにし、記憶させたい受信周波数にあわせませす。
3. [SET]を0.5秒以上押します。



ディスプレイにメモリーチャンネルが表示され点滅します。 ダイアルツマミ [V/M] [SET]

4. [SET]を押します。
ディスプレイに約2秒間“MEM-IN”が表示されます。
5. 送信周波数をあわせませす。
6. [SET]を0.5秒以上押します。
7. ダイアルツマミをまわして受信周波数をメモリーしたチャンネルにあわせませす。
8. PTTスイッチを押しながら、[SET]を押して終了です。
ディスプレイに約2秒間“MEM-IN”が表示されます。

- ◎ 操作4で[SET]を0.5秒以上押すと、メモリーに名前を付けることができます(16ページ参照)。
- ◎ セミデュプレックスメモリーチャンネルは、メモリーを呼び出したとき、ディスプレイに“-+”が表示されます。
- ◎ [REV](KEY2設定時:34ページ参照)を押すと、一時的に送信周波数と受信周波数を入れ換えるリバースが動作します。動作中はディスプレイの“-+”が点滅します。解除はもう一度[REV]を押します。

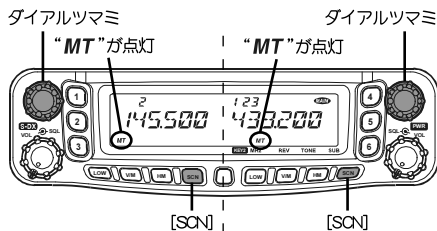
メモリーチューン機能

呼び出したメモリーチャンネルの内容を一時的に変更することができます。

1. メモリーチャンネルを呼び出します。
2. [SCN]を0.5秒以上押すと、メモリーチューン機能が動作します。

ディスプレイに“MT”が表示されます。

3. ダイアルツマミをまわすと一時的に周波数を変更することができます。
4. [V/M]を押すと、メモリーチューン機能が動作する前のチャンネルに戻ります。



メモリー操作

- ◎ メインバンド、サブバンドそれぞれ独立してメモリーチューン機能を使用することができます。
- ◎ メモリーチューンのときに[V/M]を0.5秒以上押すと、呼び出しているメモリーチャンネルの周波数がVFOにコピーされ、VFOモードで運用することができます。

メモリーの消去

メモリーチャンネルにメモリーした内容を消去することができます。

1. メインバンドで[V/M]を押して、メモリーモードにします。
2. [SET]を0.5秒以上押します。
3. メインバンドのダイアルツマミをまわして消去したいメモリーチャンネルを選択します。
4. [SCN]を押すと消去されます。



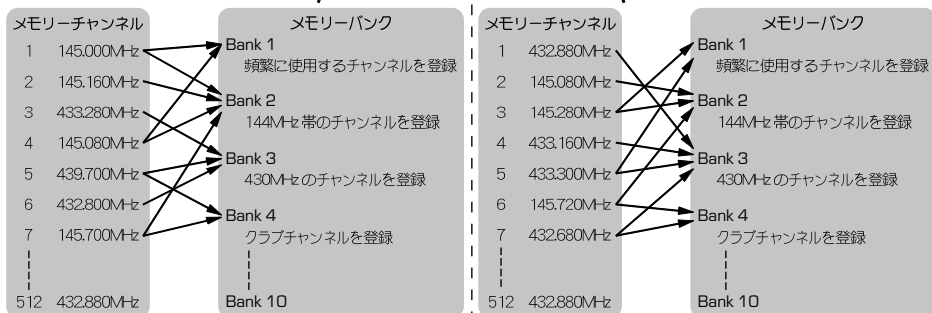
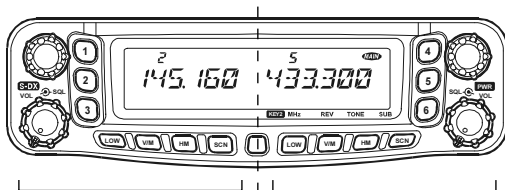
ダイアルツマミ [V/M] [SET] [SCN]

- メモリーチャンネル“1”は消すことができません。

メモリーバンク

メモリーチャンネルを、使用目的ごとのバンク(グループ)に分けて整理することができます。左右のバンドで、完全に独立したメモリーバンクが、それぞれ 10バンクずつあり、1つのメモリーチャンネルを複数のメモリーバンクに登録することができます。

また、メモリーバンクに登録したメモリーチャンネルを変更または更新すると、メモリーバンク内のメモリーチャンネルの内容も変更されます。



メモリー操作

■メモリーバンクに登録する

1. [V/M]を押してメモリーモードにします。
2. ダイアルツマミで登録したいメモリーチャンネルを選びます。

メモリーチャンネルL1～U10は、メモリーバンクに登録することができません。

3. [V/M]を0.5秒以上押します。
4. ダイアルツマミをまわして、希望のメモリーバンクを選びます。

○メモリーバンクは“BANK 1”～“BANK 10”から選ぶことができます。なお、メモリーバンクを使用しない場合は“ALL.MEM”を選択してください。

○メモリーバンク選択中に、何の操作もせず約5秒間放置すると、登録操作を解除します。

○ダイアルツマミまたは、マイクロホンの【UP】【DWN】スイッチで、希望のメモリーバンク番号を選択することができます。

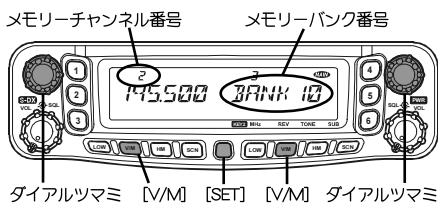
○番号が点滅しているメモリーバンクには、何も登録されてません。

5. [SET]を0.5秒以上押します。

○選んだメモリーバンクに、メモリーチャンネルが登録されます。

○同じメモリーチャンネルを、他のメモリーバンクにも登録したい場合は、再び操作4を行ってください。

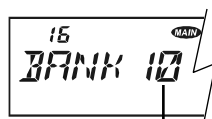
6. [V/M]を押すと、登録操作を行う前の状態に戻ります。



メモリーバンク

■メモリーバンクを呼び出す

1. [V/M]を押してメモリーモードにします。
2. [V/M]を0.5秒以上押します。
3. ダイアルツマミをまわして、希望のメモリーバンクを選びます。
 - メモリーバンクは“BANK 1”～“BANK 10”から選ぶことができます。なお、メモリーバンクを使用しない場合は“ALL.MEM”を選択してください。
 - [V/M]を0.5秒以内で押すと、呼び出し操作を中止することができます。
4. [SET]を押すと、選んだメモリーバンクが呼び出されます。
 - 呼び出したメモリーバンクに登録されたメモリーチャンネルだけを選択することができます。
 - いったん、メモリーバンクを呼び出した後にVFOモードに戻った場合、その状態でメモリーの書き込み操作を行うと、最後に呼び出していたメモリーバンクに登録されます。
(“ALL.MEM”を選択している場合は、メモリーバンクには登録されません。)



メモリーバンク番号

メモリーバンクを直接呼び出す

ハイパーメモリーキーを使用して、メモリーバンクを直接呼び出すことができます。

1. 上記の操作を行い、希望のメモリーバンクを呼び出します。
2. 呼び出しに使用したいハイパーメモリーキーを2秒以上押します。

以上で、登録は終了です。登録したハイパーメモリーキーを押すことで、そのキーに登録したメモリーバンクを直接呼び出すことができます。

■通常のメモリーモードに戻る

1. [V/M]を押してメモリーモードにします。
2. [V/M]を0.5秒以上押します。
3. ダイアルツマミをまわして、“ALL.MEM”を選びます。
 - [V/M]を0.5秒以内で押すと、操作を中止することができます。
4. [SET]を押すと、メモリーバンクの動作が解除され、通常のメモリーモードの操作に戻ります。

■メモリーバンクへの登録を解除する

1. 上記の“メモリーバンクを呼び出す”を参考に、登録を解除したいメモリーチャンネルが登録されているメモリーバンクを呼び出します。
2. ダイアルツマミをまわして、登録を解除したいメモリーチャンネルを選びます。
3. [V/M]を0.5秒以上押します。
4. [SET]を0.5秒以上押します。
 - メモリーバンクへの登録が解除され、操作1.で呼び出したメモリーバンクの状態に戻ります。

ハイパーメモリー

ハイパーメモリーとは、周波数だけではなく、現在設定してある運用状態をそのままメモリーすることができ、専用の6つのキーによりワンタッチでその運用状態(たとえばデュアル受信やスキャン状態)を呼び出すことができます。なお、ハイパーメモリーには、**マニュアルモード**と**オートモード**の2種類のモードがあり、セットモード(17 HYPER)で切り換えることができます(46ページ)。

◎マニュアルモード(工場出荷時の設定)

ハイパーメモリーを呼び出し後、周波数や各種の設定などを一時的に変えることができますが、変更した状態は保存されません。再度、同じハイパーメモリーを呼び出すと変更する前の状態が呼び出されます。変更した状態を保存したい場合は、ハイパーメモリーに書き込んでください。

◎オートモード

ハイパーメモリーを呼び出し後、周波数や各種の設定などを変更すると、その状態が自動的に保存されます。再度同じハイパーメモリーを呼び出すと、最後に操作した状態が呼び出されます。書き込む操作を行う必要がないので、VFOが6種類あるように操作することができます。

■ハイパーメモリーに運用状態を書き込む

1～6のハイパーメモリーキーで指定するだけで、現在の運用状態を書き込むことができます。

登録したいキー(1～6)を2秒以上押します。
「プップップ」と音がした後、「ピーツ」と音がしてハイパーメモリーに書き込まれます。



ハイパーメモリーキー(1～6)

- ◎ オートモードのときに、現在の運用状態を他のハイパーメモリー番号に登録したい場合は、登録したいキーを2秒以上押すと登録することができます。
- 以下の運用状態のときはハイパーメモリーに書き込むことができません。
 - ・セットモード選択中
 - ・メモリー書き込みモード中
 - ・付属のDTMFマイクロホン“MH-48A6JA”によるテンキーで周波数を入力中
 - ・スマートメモリーがサーチ中

ハイパーメモリー

■ハイパーメモリーを呼び出す

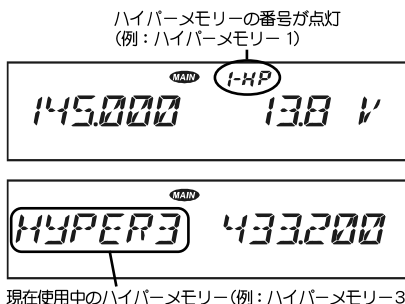
書き込まれているハイパーメモリーを呼び出します。

呼び出したいハイパーメモリーのキー(1～6)を押します。

マニュアルモードを上手に使うには

お買い上げいただいて初めて電源を入れたときは、ハイパーメモリー(マニュアルモード)のVFOモードの状態です。そのため、ハイパーメモリー2～6を呼び出すと呼び出す前に設定してあった状態(ハイパーメモリー1で使用していた運用状態)は消去されます。ハイパーメモリー2～6を呼び出す前に、現在の運用状態をハイパーメモリー1に登録しておけば、再度ハイパーメモリー1を呼び出したときに、最後に操作した運用状態を呼び出すことができます。ハイパーメモリー2～6も同様に、他のハイパーメモリーを呼び出す前に、現在の運用状態を登録することをおすすめします。

- ◎ 電源を入れたときに、現在のハイパーメモリー番号をディスプレイ(サブバンドの左上)に表示されます。
- ◎ 現在使用中のハイパーメモリー番号が知りたいときは、[SET]を押してセットモードにし、いずれかのハイパーメモリーキーを押すと、現在使用しているハイパーメモリー番号をメインバンド側に約2秒間表示し、VFOモード(またはメモリーモード)に戻ります。
- ◎ マニュアルモードのときは、周波数や各種の設定などを一時的に変えることができますが、変更した状態は保存されません。変更した状態を保存したい場合はハイパーメモリーに上書きしてください。



■ハイパーメモリーの消去(ハイパーメモリーリセット)

ハイパーメモリー1～6の内容を初期化して工場出荷時の状態に戻すことができます。

1. 左側の[V/M]を押しながら電源を入れます。
ディスプレイに「F-1 SETMOD RESET」が表示されます。
2. 右側のダイヤルツマミをまわして「F-2 HYPER RESET」選択します。
3. [SET]を押すと設定した内容を、初期値(工場出荷時の状態)に戻すことができます。

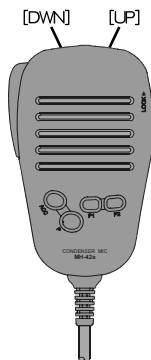
- ◎ メモリーした内容(ハイパーメモリーも含む)や、セットモードで設定した値などはすべて初期化されます。
ハイパーメモリー1～6の初期値は、左側バンドが145.000MHz、右側のバンドが433.000MHzになります。

スキャン操作

スキャンをする

信号がある周波数またはメモリーチャンネルを自動的に探します。

1. **ダイヤルツマミを押してスキャンしたいバンドを選びます。**
2. **マイクロホンの [UP] または [DWN] を 0.5 秒以上押します。**
[UP] を押すと周波数の高い方に (メモリーモード時はチャンネル番号が大きい方に)、
[DWN] を押すと周波数の低い方に (メモリーモード時はチャンネル番号が小さい方に)
バンド内をスキャンし、信号を受信するとスキャンが一時停止して、約 5 秒後に再びス
キャンを開始します。
3. **マイクロホンの [UP] または [DWN] を押すと、スキャンを中止します。**
PIT スイッチを押してもスキャンを中止することができます。

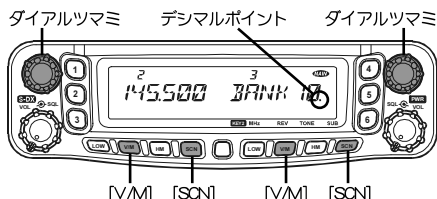


- ◎ スキャン中にダイヤルツマミを左方向に 1 クリックまわすと周波数の低い方にスキャンします。
- ◎ スキャン停止中は、ディスプレイのデシマルポイントが点滅します。
- ◎ メインバンド、サブバンドそれぞれ独立してスキャンすることができます。
- ◎ 全ての周波数帯をスキャンすることができます (セットモード 4 BAND)。
- ◎ スキャン一時停止後、信号が無くなるまで受信を続け、信号が無くなると約 1 秒後にスキャンを再スタートさせることができます (セットモード 36 SCAN)。
- ◎ メモリーモードでスキャンを動作させると、メモリーされたチャンネルだけをスキャンします。
- ◎ スキャンしたくないメモリーチャンネルを指定することができます (35 ページ: スキャンスキップ設定)。

メモリーバンクリンクスキャン

メモリーバンク呼び出し中にスキャンを行う際、通常は、呼び出したメモリーバンクに登録されているメモリーチャンネルだけをスキャンしますが、続けて他のメモリーバンクをスキャンすることができます。

1. **[V/M]を押してメモリーモードにします。**
2. **[V/M]を 0.5 秒以上押します。**
3. **ダイヤルツマミをまわして、スキャンしたいメモリーバンクを選びます。**
4. **[SCN]を押すと、バンクリンクが指定されます。**
バンクリンクが指定されると、ディスプレイのデシマルポイントが点灯します。
5. **操作 3. ~ 4. を繰り返し、スキャンしたいメモリーバンクを指定します。**
6. **[SCN]を 0.5 秒以上押すと、指定したメモリーバンクに登録されたメモリーチャンネルだけを連続でスキャンします。**
 - 再度 [SCN] を押すと、スキャンを中止することができます。
 - スキャン中にダイヤルツマミを左方向に 1 クリックまわすと、メモリーチャンネル番号の小さい方にスキャンします。
 - バンクリンクスキャンの指定を解除するには、再度上記の操作を行い、操作 3 で指定を解除したいメモリーバンクを選び、[SCN] を押してください (ディスプレイのデシマルポイントが消えます)。
 - スキャンを中止した後、[V/M] を押すと、メモリーバンクリンクスキャンを開始する前の状態に戻ります。

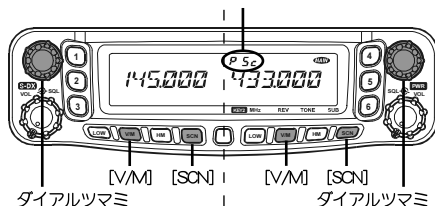


プログラブルスキャン機能

VFOモード時にスキャンを行う際、スキャンの動作条件を変更することができます。

1. **ダイヤルツマミを押してスキャンしたいバンドを選びます。**
2. **[V/M]を押してVFOモードにします。**
3. **[SCN]を0.5秒以上押します。**
ディスプレイの“P”が点滅中に、何の操作もせず約5秒間放置すると変更操作を中止します。
4. **ダイヤルツマミをまわして、希望のスキャン動作を選びます。**

スキャン中は“P 5c”, PMSの場合は“P-xx”が点灯



- BAND : セットモード“4 BAND”の設定に関係なく、スキャンを開始した時の周波数帯だけをスキャンします。
- +1MHz : スキャンを開始した周波数を中心に、上下1MHzの範囲(合計2MHzの範囲)をスキャンします。
- +2MHz : スキャンを開始した周波数を中心に、上下2MHzの範囲(合計4MHzの範囲)をスキャンします。
- +5MHz : スキャンを開始した周波数を中心に、上下5MHzの範囲(合計10MHzの範囲)をスキャンします。
- ALL : セットモード“4 BAND”の設定に関係なく、全ての周波数帯をスキャンします。
- PMS xx : 下記の“PMS”が登録されている場合は、そのPMSに登録された周波数間をスキャンします。

5. **[SCN]を押すと、選択された条件でスキャンを開始します。**
6. **再度[SCN]を押すと、スキャンを中止します。**

PMSを選択してスキャンしていた場合は、もう一度[SCN]を押すことで、通常のVFOモードに戻ることができます。

- ◎ スキャン中にダイヤルツマミを左方向に1クリックまわすと周波数の低い方にスキャンします。
- ◎ スキャン停止中は、ディスプレイのデシマルポイントが点滅します。
- ◎ メインバンド、サブバンドそれぞれ独立してスキャンすることができます。
- ◎ スキャン一時停止後、信号が無くなるまで受信を続け、信号が無くなると約1秒後にスキャンを再スタートさせることができます(セットモード36 SCAN)。

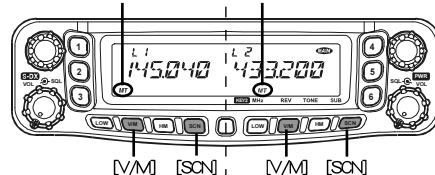
プログラブルメモリスキャン(PMS)機能

希望する周波数間だけをスキャンします。

上限周波数と下限周波数は、必ず同じバンド内の周波数をメモリーしてください。

1. **希望の下限周波数をL*(1~10)に、上限周波数をU*(Lと同じ数字)にメモリーします(14ページ)。**
周波数をメモリーする際は、メモリーバンクの設定を“ALL.MEM”にしてください(20ページ)。
2. **メモリーモードにして、L1~L10/U1~U10のいずれか呼び出します。**
3. **スキャンしたいバンドの[SCN]を0.5秒以上押します(“MT”が点灯します)。**
4. **スキャンしたいバンドの[SCN]を押します。**

[SCN]を押すと、“MT”が点灯



スキャンしているバンドの[SCN]を押すと、プログラブルメモリスキャンが停止し、メモリーチューンの状態でメモリーモードになります。

[V/M]を押すとメモリーチューンは解除されます(“MT”は消灯します)。

- ◎ 左右のバンドそれぞれ独立してスキャンすることができます。
- ◎ スキャン一時停止後、信号が無くなるまで受信を続け、信号が無くなると約1秒後にスキャンを再スタートさせることができます(セットモード36 SCAN)。

各種の便利な機能

スマートサーチ機能 (信号が入感する周波数を探して記憶する)

信号が入感する周波数を自動的に探し出し、通常メモリーチャンネルとは異なる専用のメモリーチャンネル(左右のバンドにそれぞれ独立したスマートメモリーが25チャンネル装備)に記憶します。スマートサーチは、周波数が高い方向にサーチを開始し、25チャンネルメモリーされるか、バンドエッジ(144MHz帯は146.000MHz、430MHz帯は440.000MHz)に達すると、動作を終了します。

1. VFOモードでスタートさせたい周波数にあわせます。

2. [V/M]を0.5秒以上押します。

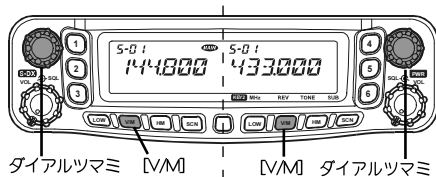
スマートサーチが終了すると、スマートメモリーの1chを表示します。

3. スマートサーチが終了後、ダイヤルツマミをまわすとスマートメモリーにメモリーした周波数を呼び出すことができます。

メインバンドのときは、マイクロホンの【UP】【DWN】スイッチでも呼び出すことができます。

スマートサーチ機能を終了するときは、[V/M]を押します。

スマートサーチを動作させる前の状態に戻ります(スマートメモリーの内容は消去されます)。



◎ メインバンド、サブバンドそれぞれ独立してスマートサーチをすることができます。

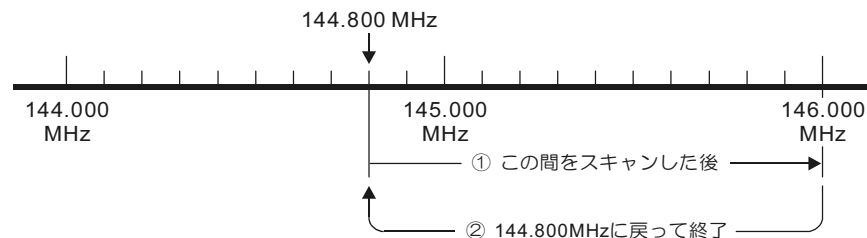
◎ スマートメモリーの周波数を、メモリーチャンネルに書き込むことができます(16ページ:メモリーに書き込む)。

● スマートサーチ中にハイパーメモリーへ登録しようとする、スマートサーチの動作はキャンセルされ、スマートメモリーの内容も消去されます。

● スマートメモリーを呼び出し中に電源を切ると、スマートメモリーの内容は消去されます。

● スマートメモリーでメモリーチューンやプライオリティスキャンの機能を使用することはできません。

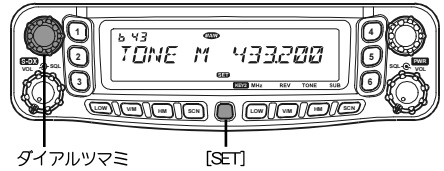
例: 144.800MHzからスマートサーチを開始した場合



トーンスケルチ機能 (特定の局と交信する)

同じトーン周波数を含んだ信号を受信したときのみ、音声を出力させる機能です。異なるトーン周波数を含んだ信号では音声が出力されませんので、あらかじめ相手局とトーン周波数をあわせておくことにより(下表の50種類)静かな待ち受けを行うことができます。

1. ダイアルツマミを押して、メインバンドを指定します。
2. [SET]を押してセットモードにします。
3. メインバンドのダイアルツマミをまわして“43 TONE M”を選びます。
4. メインバンドのダイアルツマミを押します。
5. メインバンドのダイアルツマミをまわして“ENC.DEC”を選びます。
6. [SET]を押して確定します。
7. メインバンドのダイアルツマミをまわして“42 TONE F”を選びます。
8. メインバンドのダイアルツマミを押します。
9. メインバンドのダイアルツマミで希望のトーン周波数を選びます。
10. [SET]を0.5秒以上押して確定し、セットモードを終了します。



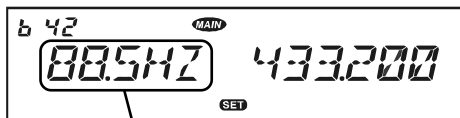
選択できるトーン周波数 (Hz)									
67.0	79.7	94.8	110.9	131.8	156.7	171.3	186.2	203.5	229.1
69.3	82.5	97.4	114.8	136.5	159.8	173.8	189.9	206.5	233.6
71.9	85.4	100.0	118.8	141.3	162.2	177.3	192.8	210.7	241.8
74.4	88.5	103.5	123.0	146.2	165.5	179.9	196.6	218.1	250.3
77.0	91.5	107.2	127.3	151.4	167.9	183.5	199.5	225.7	254.1

トーン周波数サーチ機能

相手局のトーン周波数がわからない場合、トーン周波数を探すことができます。トーン周波数を探すとサーチが一時停止し、約5秒後に再びサーチを開始します。

1. ダイアルツマミを押して、メインバンドを指定します。
2. [SET]を押してセットモードにします。
3. メインバンドのダイアルツマミをまわして“43 TONE M”を選びます。
4. メインバンドのダイアルツマミを押します。
5. メインバンドのダイアルツマミをまわして“ENC.DEC”を選びます。
6. [SET]を押して確定します。
7. メインバンドのダイアルツマミをまわして“42 TONE F”を選びます。
8. メインバンドのダイアルツマミを押してトーン周波数が表示された状態にします。
9. [SCN]を押すと、サーチを開始します。

◎ [SCN]を押すと、トーンサーチを中止することができます。



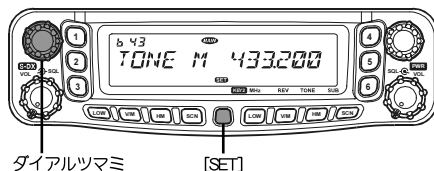
トーン周波数をサーチし、サーチした結果を表示する

DCS 機能(特定の局と交信する)

104種類のDCS(デジタルコードスケルチ)コードを使用して、同じDCSコードを含んだ信号を受信したときのみ、音声を出力させる機能です。

異なるDCSコードを含んだ信号では音声が出力されませんので、あらかじめ相手局とDCSコードをあわせておくことにより(下表の104種類)静かな待ち受けを行うことができます。

1. ダイアルツマミを押して、メインバンドを指定します。
2. [SET]を押してセットモードにします。
3. メインバンドのダイアルツマミをまわして“43 TONE M”を選びます。
4. メインバンドのダイアルツマミを押します。
5. メインバンドのダイアルツマミをまわして“DCS”を選びます。
6. [SET]を押して確定します。
7. メインバンドのダイアルツマミをまわして“10 DCS.COD”を選びます。
8. メインバンドのダイアルツマミを押します。
9. メインバンドのダイアルツマミで希望のDCSコードを選びます。
10. [SET]を0.5秒以上押して確定し、セットモードを終了します。



選べるDCSコード														
023	047	073	131	156	223	251	271	332	371	445	465	532	631	723
025	051	074	132	162	225	252	274	343	411	446	466	546	632	731
026	053	114	134	165	226	255	306	346	412	452	503	565	654	732
031	054	115	143	172	243	261	311	351	413	454	506	606	662	734
032	065	116	145	174	244	263	315	356	423	455	516	612	664	743
036	071	122	152	205	245	265	325	364	431	462	523	624	703	754
043	072	125	155	212	246	266	331	365	432	464	526	627	712	—

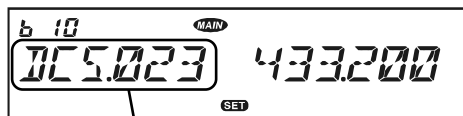
各種の便利な機能

■ DCSコードサーチ機能

相手局のDCSコードがわからない場合、コードを探することができます。DCSコードを探すとサーチが一時停止し、約5秒後に再びサーチを開始します。

1. ダイアルツマミを押して、メインバンドを指定します。
2. [SET]を押してセットモードにします。
3. メインバンドのダイアルツマミをまわして“43 TONE M”を選びます。
4. メインバンドのダイアルツマミを押します。
5. メインバンドのダイアルツマミをまわして“DCS”を選びます。
6. [SET]を押して確定します。
7. メインバンドのダイアルツマミをまわして“10 DCS.COD”を選びます。
8. メインバンドのダイアルツマミを押してDCSコードが表示された状態にします。
9. [SCN]を押すと、サーチを開始します。

◎ [SCN]を押すと、DCSサーチを中止することができます。



DCSコードをサーチし、サーチした結果を表示する

ARTS 機能(相手局と交信できる範囲にいるかを確認する)

ARTS(アーツ)機能を搭載した相手局と、交信できる状態かどうかを自動的に調べ、交信可能・不可能を“ディスプレイの表示”と“ピープ音”で知らせる機能です。

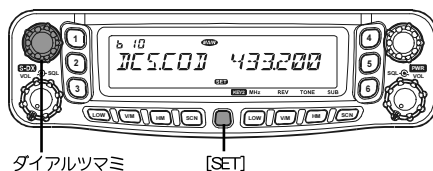


交信可能な状態



交信不可能な状態

1. ダイアルツマミを押して、メインバンドを指定します。
2. [SET]を押してセットモードにします。
3. メインバンドのダイアルツマミをまわして“10 DCS.COD”を選びます。
4. メインバンドのダイアルツマミを押します。
5. メインバンドのダイアルツマミで希望のDCSコードを選びます。
6. [SET]を押して確定します。
7. メインバンドのダイアルツマミをまわして“3 ARTS”を選びます。
8. メインバンドのダイアルツマミを押します。
9. メインバンドのダイアルツマミで、ARTSモードを選択します(下表参照)。
10. メインバンドのダイアルツマミを押すと、ARTS機能が動作します。
ARTS機能を中止する場合は[SET]を押します。



表示	動作
	交信圏内に入ったとき、1回だけ「ピロロッ」(トーンが上がる)と確認音が鳴ります(以後交信圏外に出ない限り確認音は鳴りません)。また、交信圏外に出たとき、1回だけ「ピロロッ」(トーンが下がる)と確認音が鳴ります(以後、再び交信圏内に入らない限り確認音は鳴りません)。
	交信圏内に入ったとき、1回だけ「ピロロッ」(トーンが上がる)と確認音が鳴り、その後、交信圏内にいるときは、ARTS信号を受信するたびに「ポポッ」と確認音が鳴ります。なお、交信圏外に出たとき、1回だけ「ピロロッ」(トーンが下がる)と確認音が鳴ります。

各種の便利な機能

◎ 約 10 分ごとに、モールス信号で局の ID を送出することができます(40 ページ: CW ID の設定)。

◎ CW ID は、設定した CW ID の前後に “DE” と “K” が自動的に追加されて送出されます。

— . . . — “CW ID(コールサイン)” — . . . —
 ↑ ↑ ↑ ↑
 D E 6 文字以内の CW ID K

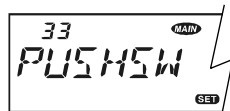
より高度な運用機能

WiRES で交信する

FT-8800/Hは、以下の操作方法で、簡単にWiRES局を利用したインターネット通信を行うことができます。あらかじめ、お近くのWiRES局のアクセスコードや周波数を八重洲無線のホームページ等でご確認ください。

■スーパーDXスイッチをインターネットスイッチに変更する

1. [SET]を押します。
2. メインバンドのダイヤルつまみをまわして“33 PUSHSW”を選びます。
3. メインバンドのダイヤルつまみを押しします。
4. メインバンドのダイヤルつまみをまわして“IN.KEY”を選びます。
5. [SET]を0.5秒以上押しして変更終了です。



“IN.KEY”にあわせる

- ◎ スーパーDXスイッチをインターネットリンクスイッチに変更しても、スーパーDX機能をセットモードでオン/オフすることができます(セットモード16 DX)。
- ◎ スーパーDX機能が動作中にインターネットモードをオンにすると、サブバンドのメモリーチャンネル表示が“r-nt”になります。

■ローカルのWiRES局をアクセスする(SRG方式)

SRG方式のWiRESをアクセスするには、ローカルのWiRES局に対して、インターネットを介して、接続したいWiRES局のアクセスコード(1桁のDTMF信号)を送出することでアクセスすることができます。あらかじめ、WiRES局の周波数とアクセスコードを確認してください。

1. [SET]を押してセットモードにします。
2. メインバンドのダイヤルつまみをまわして“18 INET”を選びます。
3. メインバンドのダイヤルつまみを押しします。
4. メインバンドのダイヤルつまみをまわして“INT.COD”を選びます。
5. [SET]を押して確定します。
6. 左側のVOLつまみを押してインターネットモードをオンにします。

ディスプレイに約2秒間“INT ON”が表示され、サブバンドのメモリーチャンネル表示に“r-nt”が表示されます(もう一度、左側のVOLつまみを押すとディスプレイに約2秒間“INTOFF”が表示され、インターネットモードがオフになります)。

7. 左側のVOLつまみを押したまま、メインバンドのダイヤルつまみをまわし、送出したいアクセスコード(DTMFコード)を設定します(あらかじめインターネットでアクセス可能なWiRES局のDTMFコードをご確認ください)。

初期値としてDTMFコード1(ディスプレイ表示:ICOD 1)が設定されていますので、アクセスしたいWiRES局のアクセスコードが“DTMFコード1”の場合は設定する必要ありません。

8. PTTスイッチを押して、マイクに向かって話します。

PTTを押すたびに操作7.でセットされたDTMFコードが送出され、インターネットを介してWiRES局をアクセスできます。

9. インターネットモードをオフにするには、左側のVOLつまみを押しします。

もう一度、左側のVOLつまみを押すとディスプレイに約2秒間“INTOFF”が表示され、インターネットモードがオフになります。

- ◎ WiRESをアクセスするためのDTMFコードを、セットモードでも設定することができます(セットモード19 INET C)。

WiRES で交信する

■ローカルの WiRES 局をアクセスする (FRG 方式)

FRG方式のWiRESをアクセスするには、ローカルのWiRES局に対して、インターネットを介して接続したいWiRES局のアクセスコード(6桁のDTMF信号)を送出することでアクセスすることができます。アクセスコード(6桁のDTMF信号)は、八重洲無線のホームページ等で、一般者向けに「WiRESリスト」として公開されております。

あらかじめ、WiRES局に周波数とアクセスコードを確認してください。

1. あらかじめ、アクセスコードと切断コードを、DTMFメモリーに登録しておきます。

DTMFメモリーの登録方法は、39ページの「DTMF機能」を参照してください。

2. [SET]を押してセットモードにします。

3. メインバンドのダイヤルツマミをまわして“18 INET”を選びます。

4. メインバンドのダイヤルツマミを押します。

5. メインバンドのダイヤルツマミをまわして“INT.MEM”を選びます。

6. [SET]を押して確定します。

7. 左側のVOLツマミを押してインターネットモードをオンにします。

ディスプレイに約2秒間“INT ON”が表示され、サブバンドのメモリーチャンネル表示に“i net”が表示されます(もう一度、左側のVOLツマミを押すとディスプレイに約2秒間“INT OFF”が表示され、インターネットモードがオフになります)。

8. 左側のVOLツマミを押したまま、メインバンドのダイヤルツマミをまわし、送出したいアクセスコード(DTMFコード)を登録したDTMFメモリーのチャンネルを選択します(あらかじめインターネットでアクセス可能なWiRES局のDTMFコードをご確認ください)。

初期値としてDTMFチャンネル1(ディスプレイ表示:IMEM 1)が設定されていますので、アクセスしたいWiRES局のアクセスコードが登録してあるチャンネルが“DTMFチャンネル1”の場合は設定する必要ありません。

9. PTTスイッチを押したままにし、左側のVOLツマミを押すと、選択したアクセスコードが送出されますので、PTTスイッチを離して受信状態にします。

DTMFが送出され、インターネットを介して、WiRES局をアクセスすることができます。

10. PTTスイッチを押して、マイクに向かって話します。

あとは、一般の交信と同様に行います。

11. 交信が終了したら、手順8.~9.の操作を行い、切断コード(#(F)99999または#(F)9999D)を登録したDTMFメモリーチャンネルを呼び出し、切断コードを送出します。

◎ WiRESをアクセスするためのDTMFコードが登録されたチャンネルを、セットモードで設定することができます(セットモード20 INET M)。

オートマッチレピーターシフト (ARS) 機能

レピーター局の周波数にあわせて送信するだけで、レピーターを使用した交信を行うことができるARS機能(Automatic Repeater Shift)を、OFFにすることができます。

1. [SET]を押します。

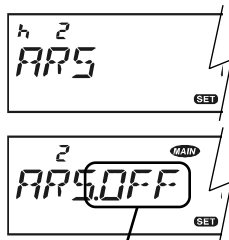
2. メインバンドのダイヤルツマミをまわして“2 ARS”を選びます。

3. メインバンドのダイヤルツマミを押します。

4. メインバンドのダイヤルツマミをまわして“OFF”を選びます(“ON”でARS機能動作)。

5. [SET]を0.5秒以上押して終了です。

◎ 430MHz帯において、トーンスケルチやDCSの機能が動作しているときは、トーンスケルチやDCSの機能が優先されARS機能は自動的にオフになります。



“OFF”にあわせる

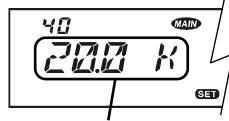
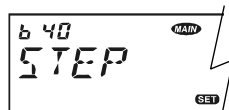
より高度な運用機能

周波数ステップを変える

周波数変化量を変えることができます。

1. [SET]を押します。
2. メインバンドのダイヤルつまみをまわして“40 STEP”を選びます。
3. メインバンドのダイヤルつまみを押します。
4. メインバンドのダイヤルつまみをまわして、希望のステップを選びます。
5. [SET]を0.5秒以上押して終了です。

選択できるステップ (kHz)
5 / 10 / 12.5 / 15 / 20 / 25 / 50



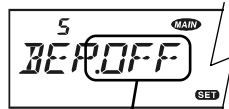
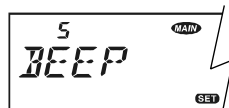
希望のステップにあわせる

◎ 各周波数帯に、個別に設定することができます。

ビープ音の“ON/OFF”

スイッチを押したときなどに出るビープ音を、鳴らないようにすることができます。

1. [SET]を押します。
2. メインバンドのダイヤルつまみをまわして“5 BEEP”を選びます。
3. メインバンドのダイヤルつまみを押します。
4. メインバンドのダイヤルつまみをまわして、“OFF”を選びます (“ON”にするとビープ音が鳴ります)。
5. [SET]を0.5秒以上押して終了です。

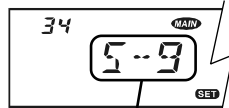
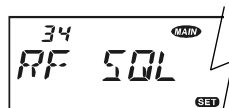


“OFF”にあわせる

RF スケルチ機能

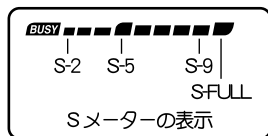
設定値以上の信号を受信した場合のみ、音声を出力させる機能です。

1. [SET]を押します。
2. メインバンドのダイヤルつまみをまわして“34 RF SQL”を選びます。
3. メインバンドのダイヤルつまみを押します。
4. メインバンドのダイヤルつまみをまわして、設定値を選びます(下表参照)。
5. [SET]を0.5秒以上押して終了です。



設定値を選択する

表示	動作状態
S-2	Sメーターが“2”以下の信号の音声は出力しません。
S-5	Sメーターが“5”以下の信号の音声は出力しません。
S-9	Sメーターが“9”以下の信号の音声は出力しません。
S-FULL	Sメーターが“フルスケール”以下の信号の音声は出力しません。
OFF	RF スケルチ機能が“OFF”になります。



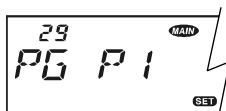
6. SQL ツマミを右側にまわし切ると、RF スケルチ機能が動作します。

◎ 左側のバンドと右側のバンドを個別に設定することができます。

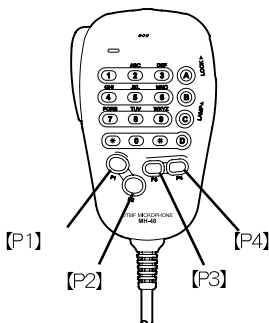
プログラブルキー機能

付属のDTMFマイクロホンMH48A6JAの【P1】【P2】【P3】【P4】キーを押したときの動作を変更することができます。

1. [SET]を押します。
2. メインバンドのダイヤルツマミをまわして、変更したいキーに対応する項目(下表参照)を選びます。
(例：【P1】キーの動作を変更したい場合は“29 PG P1”を選択します。)
3. メインバンドのダイヤルツマミを押します。
4. メインバンドのダイヤルツマミをまわして、変更したい機能を選びます(下表参照)。
5. [SET]を0.5秒以上押して終了です。



29 PG P1を“BAND”に選択した場合



変更可能なキー	初期設定値	選択項目
【P1】	BAND	29 PG P1
【P2】	V/M	30 PG P2
【P3】	STONE	31 PG P3
【P4】	LOW	32 PG P4

割り当てることができる動作		
	0.5秒以下押し	0.5秒以上押し
SQL OFF	押ししている間スケルチが“OFF”になります	-----
TCALL	※通常は選択しないでください	-----
RPTR	レピーター運用時のシフト方向の切り換え	-----
PRI	プライオリティ機能のON/OFF	-----
LOW	送信出力の切り換え	メモリーの名前表示 / 周波数表示切り換え
STONE	ENC・ENC/DEC・DCSの切り換え	-----
MHz	一時的に1MHzステップで周波数を変えることができます	一時的に10MHzステップで周波数を変えることができます。
REV	リバース機能 ※レピーター運用時やセミデュプレックスメモリーで運用中、送受信周波数を入れ換える機能です。	レピーターシフト方向の切り換え RPT. -・ RPT. +・ OFF を選択します
HOME	ホームチャンネルの呼び出し	プライオリティ機能
BAND	メインバンド左側 / 右側切り換え	VFO周波数帯の切り換え
VFO/MR	VFO / メモリーモードの切り換え	VFOモードのときはスマートサーチスキャンが動作します。メモリーモードのときはメモリーバンクを選択することができます
SCAN	VFO(またはメモリー)モードのスキャンを開始します。	VFOモードのときはプログラブルスキャンの動作を選択することができます。 メモリーモードのときはメモリーチューン機能が動作します。

より高度な運用機能

KEY2 操作の切り換え

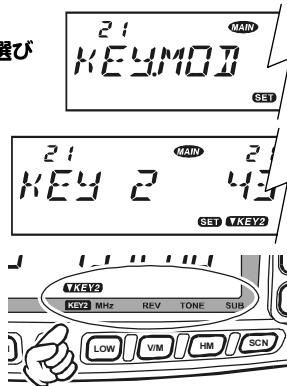
パネル面の右側のキー操作をメインバンド専用キーに変更することができます。

1. [SET]を押します。
2. メインバンドのダイヤルツマミをまわして“21 KEY.MOD”を選びます。
3. メインバンドのダイヤルツマミを押します。
4. メインバンドのダイヤルツマミをまわして“KEY 2”を選びます(下表参照)。

ディスプレイに“**KEY2**”が点灯します。

5. [SET]を0.5秒以上押し続けて終了です。

KEY2に変更すると、ディスプレイの右下に表示されている各キー操作に変わります。

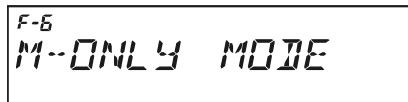


キー	キーを押す時間	動作
MHz (LOW)	0.5秒以内	VFOモードのときは、ダイヤルをまわすと周波数を1MHzステップで変更することができます。もう一度キーを押すと確定します。 メモリーモードのときは、ダイヤルをまわすと10桁単位で登録されているメモリーチャンネルに移動することができます。もう一度キーを押すと確定します。
	0.5秒以上	VFOモードのときに、ダイヤルをまわすと周波数を10MHzステップで変更することができます。もう一度キーを押すと確定します。
REV (V/M)	0.5秒以内	レピーター運用時に、送受信周波数を入れ換えることができます。
	0.5秒以上	0.5秒以上押すたびに、RPT. -> RPT. +> OFF> RPT. -> . . . とレピーターシフト方向が切り換わります。
TONE (HM)	0.5秒以内	押すたびにENC> ENC/DEC> DCS> OFF> ENC . . . と切り換わります。
	0.5秒以上	- - - - -
SUB (SCN)	0.5秒以内	KEY2の操作を一時的にサブバンド専用キーに変更します。動作中はサブバンドに“MAIN”が点滅します。
	0.5秒以上	- - - - -

メモリーオンリーモード

メモリーチャンネルにメモリーした周波数だけで運用することができます。

1. 左側の[V/M]を押しながら電源を入れます。
ディスプレイに「F-1 SETMOD RESET」が表示されます。
2. 右側のダイヤルツマミをまわして「F-6 M-ONLY MODE」を選択します。
3. [SET]を押すと、メモリーオンリーモードが動作します。



上記と同じ操作を繰り返すと、メモリーオンリーモードを解除できます。

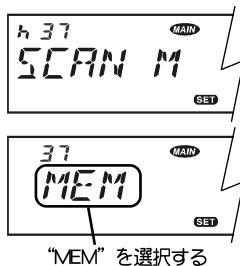
- ◎ [SCN]を押すとメモリーチャンネルスキャンが動作します。
- ◎ [HM]を0.5秒以上押すとメモリープライオリティスキャンが動作します。
- メモリーオンリーモードにすると下記の操作が出来なくなります。

- ・タグの表示切替
- ・メモリーチューン操作
- ・ハイパーメモリーの書き込み / 呼び出し
- ・ホームチャンネルの呼び出し
- ・プログラムブルメモリスキャン(PMS)の操作
- ・スマートサーチメモリーの操作
- ・ARTS機能の操作
- ・セットモードの呼び出し

スキップ設定

スキャンしたくないメモリーチャンネルを指定することができます。

1. メインバンドにスキャンしたくないメモリーチャンネルを呼び出します。
2. [SET]を押します。
3. メインバンドのダイヤルつまみをまわして“37 SCAN M”を選びます。
4. メインバンドのダイヤルつまみを押します。
5. メインバンドのダイヤルつまみをまわして“MEM”を選びます。
6. [SET]を押します。
7. メインバンドのダイヤルつまみをまわして“39 SKP.MSM”を選びます。
8. メインバンドのダイヤルつまみを押します。
9. メインバンドのダイヤルつまみをまわして“SKIP”を選びます。
10. [SET]を0.5秒以上押しして終了です。
スキャンしたくないメモリーチャンネルに“SKIP”の表示が追加されます。
スキャンしたくないメモリーが複数ある場合は、上記の操作を繰り返してください。
11. メインバンドの[SCN]を押すと、スキャンしたくないメモリーを飛ばしてスキャンを開始します。
スキャンを終了したいときはメインバンドの[SCN]を押します。



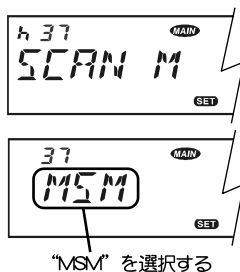
◎ スキップ指定を解除するには、再度上記の操作を行い、操作 9 で“OFF”を選択してください。

● メモリーチャンネル“L1～L10”、“U1～U10”には、スキップ指定を指定することはできません。

指定メモリースキャン設定

メモリーチャンネルの中からスキャンしたいメモリーを指定してあくと、指定したメモリーチャンネルのみをスキャンできます。

1. メインバンドにスキャンしたいメモリーチャンネルを呼び出します。
2. [SET]を押します。
3. メインバンドのダイヤルつまみをまわして“37 SCAN M”を選びます。
4. メインバンドのダイヤルつまみを押します。
5. メインバンドのダイヤルつまみをまわして“MSM”を選びます。
6. [SET]を押します。
7. メインバンドのダイヤルつまみをまわして“39 SKP.MSM”を選びます。
8. メインバンドのダイヤルつまみを押します。
9. メインバンドのダイヤルつまみをまわして“MSM”を選びます。
10. [SET]を0.5秒以上押しして終了です。
スキャンしたいメモリーチャンネルに“◀”の表示が追加されます。
スキャンしたいメモリーが複数ある場合は、上記の操作を繰り返してください。
11. メインバンドの[SCN]を押すと、スキャンしたいメモリーだけ、スキャンを開始します。
スキャンを終了したいときはメインバンドの[SCN]を押します。



より高度な運用機能

◎ 指定を解除するには、再度上記の操作を行い、操作 9 で“OFF”を選択してください。

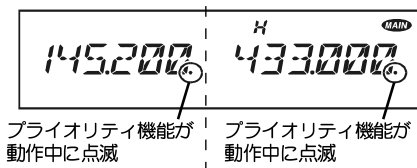
● メモリーチャンネル“L1～L10”、“U1～U10”を指定することはできません。

● スキャンしたいメモリーチャンネルを指定していない場合は、[SCN]を押してもスキャンしません。

プライオリティ機能

約5秒間に一度、指定したメモリーチャンネルに信号があるかを確認し、信号がある場合は、指定したメモリーチャンネルの信号を受信します。

ダイヤルプライオリティの場合 | HOMEプライオリティの場合



◎ 左右のバンドで、プライオリティ受信を同時におこなうことができます。

■ダイヤルプライオリティ (VFOモード⇔メモリーチャンネル)

VFOモードで受信中に、希望のメモリーチャンネルを確認します。

1. [V/M]を押して確認したいメモリーチャンネルを呼び出します。
2. [V/M]を押してVFOモードにします。
3. [HM]を0.5秒以上押します。

[HM]を0.5秒以上押すと、プライオリティ機能を中止することができます。

■メモリープライオリティ (メモリーチャンネル⇔メモリーチャンネル)

希望のメモリーチャンネルを受信中に、メモリーチャンネル“1”を確認します。

1. [V/M]を押して受信したいメモリーチャンネルを呼び出します。
2. [HM]を0.5秒以上押します。

[HM]を0.5秒以上押すと、プライオリティ機能を中止することができます。

■HOME (HM) プライオリティ (HOME (HM) チャンネル⇔メモリーチャンネル)

ホームチャンネルを受信中に、希望のメモリーチャンネルを確認します。


1. [V/M]を押して確認したいメモリーチャンネルを呼び出します。
2. [HM]を押してホームチャンネルを呼び出します。
3. [HM]を0.5秒以上押します。

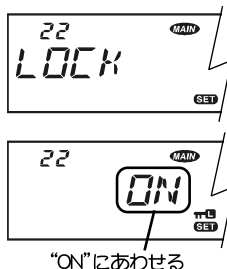
[HM]を0.5秒以上押すと、プライオリティ機能を中止することができます。

スイッチ類をロックさせる

フロントパネルのスイッチやキーをロック(動作しないようにする)することができます。

1. [SET]を押します。
2. メインバンドのダイヤルつまみをまわして“22 LOCK”を選びます。
3. メインバンドのダイヤルつまみを押します。
4. メインバンドのダイヤルつまみをまわして“ON”を選びます。
(“OFF”でロック機能解除)
5. [SET]を0.5秒以上押して終了です。

- ◎ ロック機能が動作中でも[SET]と電源入り切り操作は動作します。
- ◎ ディスプレイに“ ”の表示が点灯します。
- ◎ PTTスイッチはロックされません。 PTTをロックする場合は、セットモードの“23 LOCKT”を“OFF”以外に設定してください(下記: PTTロック機能)。

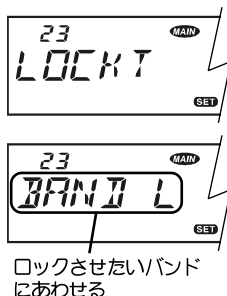


PTTロック機能

誤って送信しないように、PTTスイッチの動作をロックすることができます。

1. [SET]を押します。
2. メインバンドのダイヤルつまみをまわして“23 LOCKT”を選びます。
3. メインバンドのダイヤルつまみを押します。
4. メインバンドのダイヤルつまみをまわして、送信を禁止したいバンドを選びます(下表参照)。
5. [SET]を0.5秒以上押して終了です。

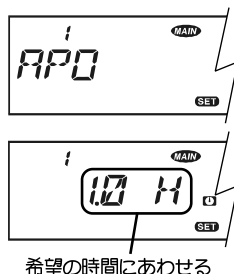
表示	動作状態
OFF	どちらのバンドも送信します。
BAND R	ディスプレイの右側に表示されているバンドを送信禁止にします。
BAND L	ディスプレイの左側に表示されているバンドを送信禁止にします。
BOTH	どちらのバンドも送信禁止にします。



オートパワーオフ(APO)機能

何も操作をしないと、自動的に電源が“OFF”になる時間を設定することができます。

1. [SET]を押します。
2. メインバンドのダイヤルつまみをまわして“1 APO”を選びます。
3. メインバンドのダイヤルつまみを押します。
4. メインバンドのダイヤルつまみをまわして、電源オフまでの時間を選びます。
(30分単位でOFF～12時間まで)
5. [SET]を0.5秒以上押して終了です。

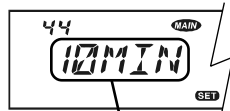
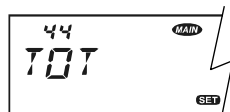


- ◎ 電源が切れる約3分前になると、ディスプレイの“ ”表示が点滅すると共に、「ピーピー」とピープ音が鳴り始めます。

タイム・アウト・タイマー(TOT)機能

連続送信した際に、自動的に送信を中止するまでの時間を設定することができます。

1. [SET]を押します。
2. メインバンドのダイヤルつまみをまわして“44 TOT”を選びます。
3. メインバンドのダイヤルつまみを押します。
4. メインバンドのダイヤルつまみをまわして、送信を中止するまでの時間を選びます。
(1分単位でOFF～30分まで)
5. [SET]を0.5秒以上押して終了です。



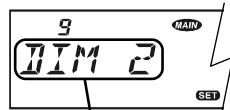
希望の時間にあわせる

◎ 送信を中止する約 10 秒前になると「ピロピロピロッ」と警告音が鳴ります。

ディマー調整

ディスプレイの明るさを調整することができます。

1. [SET]を押します。
2. メインバンドのダイヤルつまみをまわして“9 DIMMER”を選びます。
3. メインバンドのダイヤルつまみを押します。
4. メインバンドのダイヤルつまみをまわして、明るさを選びます。
(『明るい』DIM 1 ↔ DIM 2 ↔ DIM 3 ↔ DIMOFF 『暗い』)
5. [SET]を0.5秒以上押して終了です。



希望の明るさにあわせる

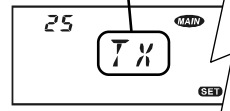
ミュート機能

メインバンドとサブバンド共に信号を受信した場合、自動的にサブバンドの音声を下げることができます。また、送信時にサブバンドの音声を自動的に出ないようにすることができます。

1. [SET]を押します。
2. メインバンドのダイヤルつまみで“25 MUTE”を選びます。
3. メインバンドのダイヤルつまみを押します。
4. メインバンドのダイヤルつまみをまわして、サブバンドの音声出力の制限を選びます(下表参照)。
5. [SET]を0.5秒以上押して終了です。



希望のミュートを選択する



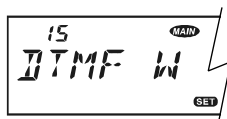
表示	動作状態
TX	メインバンドで送信しているときに、サブバンドの音声は出力されません。
RX	メインバンドに信号が入感しているときに、サブバンドの音声出力レベルを下げます。
TX/RX	“TX”と“RX”のミュート機能が両方動作します。
OFF	ミュート機能を解除します。

◎ メインバンドとサブバンドが同じ周波数帯の場合は、ミュート機能がどの動作設定になっていても、メインバンドで送信すると、サブバンドの音声を自動的に出ないようにミュート機能が動作します。

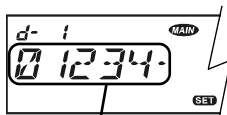
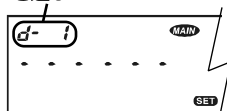
DTMF 機能

フーンパッチから公衆回線に接続する時に使用する電話番号などを、最大 16 桁の DTMF 信号で登録することができます(合計 16 チャンネル)。

1. [SET]を押します。
2. メインバンドのダイヤルつまみまわして“15 DTMF W”を選びます。
3. メインバンドのダイヤルつまみを押します。
4. メインバンドのダイヤルつまみをまわして、メモリーしたい DTMF チャンネルを選びます。
5. メインバンドのダイヤルつまみを押します。
6. メインバンドのダイヤルつまみをまわして、希望の DTMF コード(0～9, A～D, E(*), F(#))を選びます。
7. メインバンドのダイヤルつまみを押すと、次の桁に移ります。
8. 操作 6. と 7. を繰り返して、DTMF コードを入力(最大 16 桁)していきます。
9. [SET]を押して確定します。
10. [SET]を 0.5 秒以上押して登録終了です。



希望の DTMF チャンネル
を選ぶ



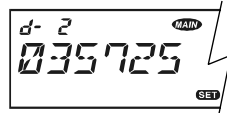
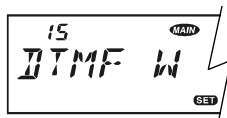
DTMF コード
(最大 16 桁入力可能)

- ◎ コード入力中にマイクロホンの【DWN】スイッチを押すとカーソルが一桁前に戻ります。
- ◎ CW ID 入力中にメインバンド側の【SCN】を押すと、カーソル以降(カーソルのある桁を含む)のコードを消去できます。

■ DTMF コードの送出

登録した DTMF コードを送出することができます。

1. [SET]を押します。
2. メインバンドのダイヤルつまみまわして“15 DTMF W”を選びます。
3. メインバンドのダイヤルつまみを押します。
4. メインバンドのダイヤルつまみをまわして、送出したい DTMF コードのチャンネルを選びます。
5. [SET]を 0.5 秒以上押してセットモードを終了します。
6. 送信しながら【HM】を押すと、DTMF コードが送出されます。



より高度な運用機能

- ◎ DTMF コード送出中は、“PTT”スイッチを離しても、約 1.5 秒間送信状態を保持されます。
- ◎ 【HM】を押してから、DTMF コードが送出されるまでの時間を変えることができます(セットモード 13 DTMF D)。
- ◎ DTMF コードの送出スピードを変えることができます(セットモード 14 DTMF S)。

内部 / 外部スピーカーの設定

内蔵スピーカーまたは外部スピーカーのどちら（または両方）のスピーカーから音声を出力するか選択することができます。

1. [SET]を押します。
2. メインバンドのダイヤルつまみで“41 SPCONT”を選びます。
3. メインバンドのダイヤルつまみを押します。
4. メインバンドのダイヤルつまみをまわして、どのスピーカーから音声を出力するか選びます（下表参照）。
5. [SET]を0.5秒以上押して終了です。



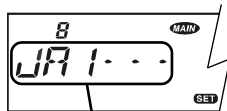
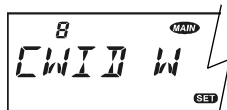
希望のスピーカー設定にする

表示	動作状態
INT.EXT	内蔵スピーカーとEXT SPに接続した外部スピーカーから音声が出力されます。
INT	内蔵スピーカーから音声が出力されます。
EXT	EXT SPに接続した外部スピーカーから音声が出力されます（未接続時は内部スピーカーから音声が出力されます）。
OFF	内蔵スピーカー / 外部スピーカーどちらのスピーカーからも音声が出力されません。

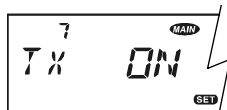
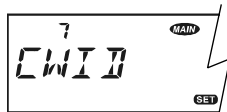
CW IDの設定

ARTS運用時に送出する、CW IDを設定することができます（6文字まで）。

1. [SET]を押します。
2. メインバンドのダイヤルつまみをまわして“8 CWID W”を選びます。
3. メインバンドのダイヤルつまみを押します。
4. メインバンドのダイヤルつまみを押します。
5. ダイヤルつまみで希望の英数字（0～9，A～Z）を選びます。
6. メインバンドのダイヤルつまみを押すと、次の桁に移ります。
7. [SET]を押します。
CW IDの登録のみ行う場合は、[SET]を0.5秒以上押して終了します。
8. [SET]を押します。
9. メインバンドのダイヤルつまみで“7 CWID”を選びます。
10. メインバンドのダイヤルつまみを押します。
11. メインバンドのダイヤルつまみをまわして“TX ON”を選びます（“TX OFF”にするとCW IDは送出されないようになります）。
12. [SET]を0.5秒以上押して終了です。



希望のIDを入力する



◎ コード入力中にマイクロホンの【DWN】スイッチを押すとカーソルが一桁前に戻ります。

◎ CW ID入力中にメインバンド側の[SCN]を押すと、カーソル以降（カーソルのある桁を含む）のコードを消去できます。

● CWでIDを送出するためには、第三級アマチュア無線技士以上の資格が必要です。

第四級アマチュア無線技士の方は“セットモード7 CWID”の設定は“TX OFF”のまままでご使用ください。

クローン機能

FT-8800/H同士を接続することにより、メモリー内容や各種設定内容を、他のFT-8800/Hにコピーすることができます。

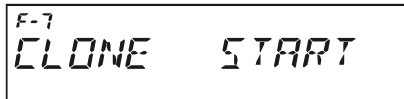
1. 電源を切ってから、クローン用のケーブル(下図参照)を接続します。

クローン用のケーブルは、オプションの/パケットケーブル“CT-39A”を2本ご用意していただき、下図を参考に結線してご使用ください。

2. 左側の[V/M]を押しながら電源を入れます。

ディスプレイに「F-1 SETMOD RESET」が表示されます。

3. 右側のダイヤルツマミをまわして「F-7 CLONE START」選択します。



4. [SET]を押します。

「ピーツ」と音が鳴り、ディスプレイに“CLONE”が表示されます。

5. 受け側は左側の[LOW]を押します(“CLONE -RX-”が表示)。

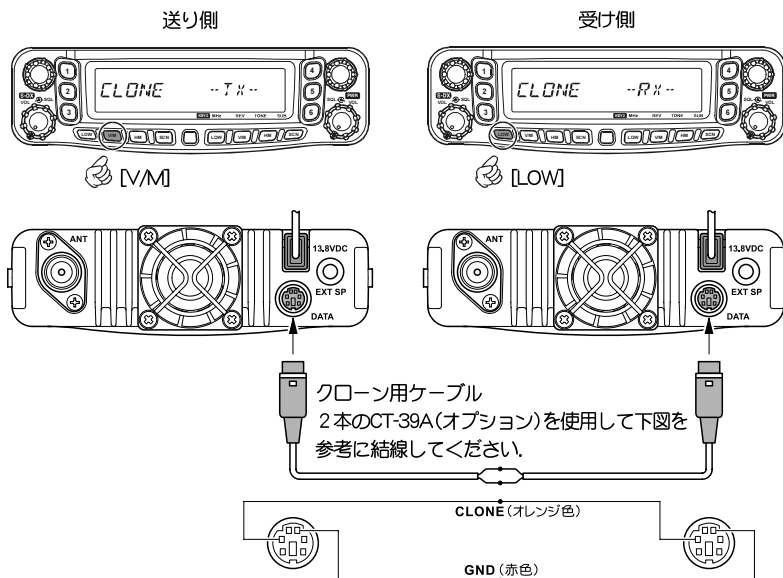
6. 送り側は左側の[V/M]を押します(“CLONE -TX-”が表示)。

○「ピーツ」と音が鳴ります。

○受け側はディスプレイのS/POメーターがコピーの進行状況を示します。

7. クローンが完了すると、“CLONE -TX-”および“CLONE -RX-”の表示が消えます。

8. 電源を切ってからクローンケーブルをはずして終了です。



より高度な運用機能

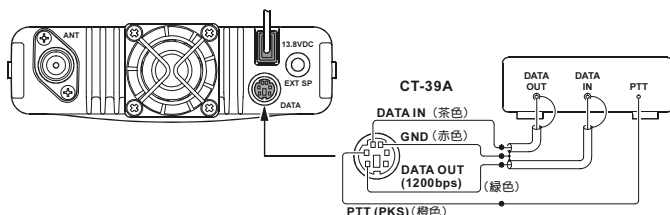
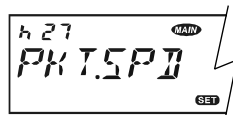
- クローン操作中、ディスプレイに“ERROR”が表示された場合は、クローンケーブルの接続などを確認して、はじめから操作をやり直してください。
- クローン操作中に電源不良で異常終了した場合は、受け側のFT-8800/Hが自動的にオールリセットされます。電源に異常がないか確認し、はじめから操作をやり直してください。
- 仕様の異なるFT-8800/Hシリーズ間でのクローンはできません。詳しくは当社カスタマーサポートまでご相談下さい。

パケット通信

1200bps で通信する場合

下図を参考に、オプションのパケットケーブル“CT-39A”を使用して、パケット通信用TNC(ターミナル・ノード・コントローラー)とDATA端子を接続することにより、通信速度 1200bps のパケット通信を行うことができます。

1. [SET]を押します。
2. メイン側のダイヤルつまみをまわし“27 PKT.SPD”を選びます。
3. メイン側のダイヤルつまみを押します。
4. メイン側のダイヤルつまみをまわし“1200bps”を選びます。
5. [SET]を0.5秒以上押しして終了です。



- ◎ DATA端子のデータは右図を参照してください。
- ◎ 入力レベルの調整は、TNC側で行ってください。
- ◎ 工場出荷時では、メインバンドでパケットの送信・受信を行えますが、メインバンドの設定に関係なくパケットの受信周波数帯を左右に表示されているどちらかの周波数帯に固定することができます(セットモード28 PKT.RXB)。

Packet Data Input

インピーダンス: 10 kΩ
最大入力レベル: 1200 bps : 40 mV p-p
9600 bps : 2.0 V p-p



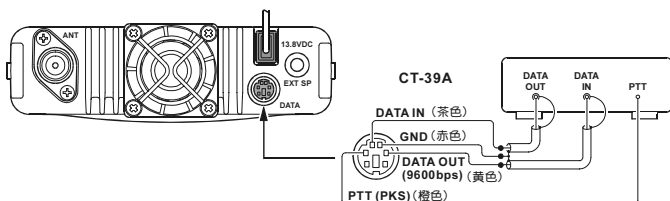
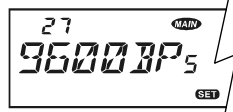
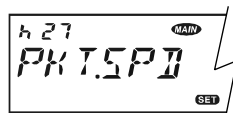
1200 bps Packet Data Output
インピーダンス: 10 kΩ
最大出力: 300 mV p-p

Squelch Control
スクエッチオープン: +5 V
スクエッチクローズ: 0 V

9600bps で通信する場合

下図を参考に、オプションのパケットケーブル“CT-39A”を使用して、パケット通信用TNC(ターミナル・ノード・コントローラー)とDATA端子を接続することにより、通信速度 9600bps のパケット通信を行うことができます。

1. [SET]を押します。
2. メイン側のダイヤルつまみをまわし“27 PKT.SPD”を選びます。
3. メイン側のダイヤルつまみを押します。
4. メイン側のダイヤルつまみをまわし“9600bps”を選びます。
5. [SET]を0.5秒以上押しして終了です。



- ◎ 入力レベルは TNC側で行ってください。
- ◎ 工場出荷時では、メインバンドでパケットの送信・受信を行えますが、メインバンドの設定に関係なくパケットの受信周波数帯を左右に表示されているどちらかの周波数帯に固定することができます(セットモード28 PKT.RXB)。

セットモード一覧表

本機に備えられた“機能”または“動作”の設定(46種類)を行うことができます。

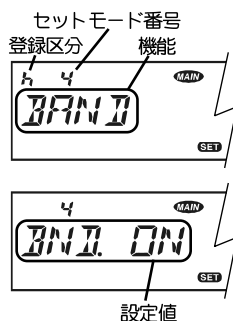
機 能	ディスプレイ表示	初期値	ページ
オートパワーオフ(APO)の設定	1 APO	OFF	44
オートマッチレピーターシフト(ARS)の設定	2 ARS	ON	44
ARTSモードの設定	3 ARTS	IN RNG	44
バンド内スキャンの“ON/OFF”	4 BAND	BND. ON	44
ビーブ音の“ON/OFF”	5 BEEP	BEP. ON	44
クロックシフトの“ON/OFF”	6 CLK.SFT	SFT.OFF	45
ARTS 運用時に送出するCWDの設定	7 CWID	TX OFF	45
ARTS 運用時に送出するCWDの書き込み	8 CWID W	- - - - -	45
ディスプレイの明るさ設定	9 DIMMER	DIM 1	45
DCS コードの設定	10 DCS.COD	023	45
DCS コードの極性設定	11 DCS.N/R	TRX N	45
ディスプレイのサブバンド表示設定	12 DSP.SUB	FREQ	45
DTMF 送出ディレイタイム設定	13 DTMF D	450ms	45
DTMF 送出スピード設定	14 DTMF S	50ms	45
DTMF チャンネル/コードの設定	15 DTMF W	- - - - -	45
スーパーDXの“ON/OFF”	16 DX	DX OFF	46
ハイパーメモリーの動作設定	17 HYPER	MANUAL	46
インターネットモードの設定	18 INET	INT.COD	46
インターネットモードで使用するコード設定	19 INET C	CODE 1	46
インターネットモードで使用するDTMFメモリーの設定	20 INET M	- - - - -	46
パネル面のKEY2設定	21 KEY.MOD	KEY 1	46
ロック機能の設定	22 LOCK	OFF	46
PTTロックの設定	23 LOCKT	OFF	46
使用するマイクロホンの設定	24 MIC	MH48	47
ミュート機能の設定	25 MUTE	OFF	47
メモリーの名前入力	26 NAME	- - - - -	47
パケット運用時の通信速度(ボーレート)の設定	27 PKT.SPД	1200bps	47
パケット通信で受信する周波数帯の設定	28 PKT.RXB	MAIN	47
【P1】キー(MH+42B6.5では【ACC】)の動作変更	29 PG P1	BAND	48
【P2】キー(MH+42B6.5では【P1】)の動作変更	30 PG P2	VFO/MR	48
【P3】キー(MH+42B6.5では【P1】)の動作変更	31 PG P3	TONE	48
【P4】キー(MH+42B6.5では【P2】)の動作変更	32 PG P4	LOW	48
左側VOLツマミのプッシュスイッチ設定	33 PUSHSW	DXKEY	48
RFスケルチの設定	34 RF SQL	OFF	48
レピータシフト方向の設定	35 RPT.MOD	RPT. OFF	48
スキャンストップモードの設定	36 SCAN	TIME	48
スキップメモリー(MEM)と特定メモリー(MSM)の選択	37 SCAN M	MEM	48
シフト周波数の設定	38 SHIFT	0MHz (430MHz帯:5MHz)	49
指定メモリスキャンの設定	39 SKP.MSM	OFF	49
周波数ステップの設定	40 STEP	20.0kHz	49
外部スピーカーから出力させる音声の選択	41 SPCONT	EXT	49
トーン周波数の設定	42 TONE F	88.5Hz	49
トーンスケルチ/DCSの選択	43 TONE M	OFF	49
タイムアウトタイマー(TOT)の設定	44 TOT	6 MIN(分)	49
VFOトラッキング機能の設定	45 VFO.TR	OFF	49
送受信WIDE/NARROWの設定	46 WID.NAR	WIDE	49

セットモードの動作一覧表

操作のしかた

1. [SET]を押します。
メイン側のディスプレイにセットモードの“機能”が表示されます。
2. メイン側のダイヤルつまみをまわして“機能”を選択します。
3. メイン側のダイヤルつまみを押して“設定値”を表示します。
4. メイン側のダイヤルつまみをまわして“設定値”を選択します。
5. [SET]を0.5秒以上押して終了です。

登録区分：“○”の機能(表示：無し)はメインバンド，サブバンド共通の設定，“h”の機能(ディスプレイ表示：h)はハイパーメモリーに個別に登録可能，“b”の機能(ディスプレイ表示：b)はメモリーやホームチャンネルに個別に登録可能です。



セットモードリセット

1. 左側の[V/M]を押しながら電源を入れます。
ディスプレイに「F-1 SETMOD RESET」が表示されます。
2. [SET]を押します。
登録区分“○”の機能(表示：無し)のセットモードだけを，初期値(工場出荷時の状態)に戻すことができます。

○ 1 APO オートパワーオフ (APO) の設定 (初期値：OFF)

選択項目	0.5 H ~ 12 H	電源が OFF になるまでの時間を 30 分単位で設定できます。
	OFF	APO 機能は動作しません。

h 2 ARS オートマッチレピーターシフト (ARS) の設定 (初期値：ON)

選択項目	ON/OFF	オートマッチレピーターシフト機能の動作を ON/OFF します。
------	--------	----------------------------------

h 3 ARTS ARTS モードの設定 (初期値：IN RNG)

選択項目	IN RNG	交信圏内に入ったときおよび交信圏外になったときのみ確認音が鳴ります。
	ALWAYS	交信圏内にいるときは ARTS 信号を受信するたびに確認音が鳴ります。

h 4 BAND バンド内スキャンの ON/OFF (初期値：BND.ON)

選択項目	BND.ON	バンド内のみスキャンします。
	BND.OFF	全てのバンドをスキャンします。

○ 5 BEEP ビープ音の ON/OFF (初期値：BEP.ON)

選択項目	BEP.ON	スイッチ類を押したときビープ音が鳴ります。 また，バンドエッジを通過したとき，メモリー 1 やセットモード 1 を通過したときにもビープ音が鳴ります。
	BEP.OFF	ビープ音が鳴らなくなります。

セットモードの動作一覧表

⑥ 6 CLK.SFT クロックシフトのON/OFF (初期値：SFT.OFF)

選択項目	SFT.ON	マイコンのクロックを高周波による内部スプリアスとして受信されたときは“ON”にします。
	SFT.OFF	通常はこの位置で使用します。

○ 7 CWID ARTS 運用時に送出するCWIDの設定 (初期値：TX OFF)

選択項目	TX.ON	約10分ごとにCWIDを送出します。
	TX.OFF	CWIDの送出は行いません。

○ 8 CWID W ARTS 運用時に送出するCWIDの書き込み

選択項目	英数字	6桁の英数字を設定することができます。
------	-----	---------------------

○ 9 DIMMER ディスプレイの明るさ設定 (初期値：DIM 1)

設定項目	DIM1～DIM3	数字が小さいほどディスプレイは明るくなります。
	OFF	ディスプレイの照明が消えます。

⑥ 10 DCS.COD DCSコードの設定 (初期値：023)

設定項目	023～754	104種類のDCSコードから設定します。
------	---------	----------------------

○ 11 DCS.N/R DCSコードの極性設定 (初期値：TRX N)

選択項目	TRX N/RX R	常にTRX Nで使用してください。
	TX R/TRX R	

⑥ 12 DSP.SUB ディスプレイのサブバンド表示設定 (初期値：FREQ)

- “FREQ” 以外はメインバンドでのモノバンド運用になり、パネル面の右側のキー操作を自動的にKEY2操作に変更します (KEY2の操作説明は34ページを参照してください)。

選択項目	FREQ	サブバンドの周波数を表示します。
	CW ID	ARTS運用時に送出するCWIDを表示します。
	DC-IN	電源電圧を表示します。
	OFF	サブバンドの表示が消えます。

○ 13 DTMF D DTMF 送出ディレイタイム設定 (初期値：450ms)

選択項目	50/250/450	[HM]を押してから左記で選択した時間経過後にDTMF信号を送出します。
	750/1000 ms	

○ 14 DTMF S DTMF 送出スピード設定 (初期値：50ms)

選択項目	50ms	1秒間に10文字の割合でDTMFコードが送出されます。
	75ms	1秒間に6.6文字の割合でDTMFコードが送出されます。
	100ms	1秒間に5文字の割合でDTMFコードが送出されます。

○ 15 DTMF W DTMF チャンネル / コードの設定

選択項目	—	DTMFコードを希望のチャンネルに設定することができます。 ※ DTMFコードの設定は、39ページを参照してください。
------	---	--

セットモードの動作一覧表

○ 16 DX スーパーDXのON/OFF (初期値: DX OFF)

選択項目	DX OFF	通常の受信感度に戻ります。
	DX ON	全てのバンドにおいて受信感度がアップし、高感度受信になります。

○ 17 HYPER ハイパーメモリーの動作設定 (初期値: MANUAL)

選択項目	MANUAL	ハイパーメモリーを呼び出し後、周波数や各種の設定などを一時的に変えることができますが、変更した状態は保存されません。
	AUTO	ハイパーメモリーを呼び出し後、周波数や各種の設定などを変更すると、その状態が自動的に保存されます。VFOが6種類あるように操作することができます。

○ 18 INET インターネットモードの設定 (初期値: INT.COD)

選択項目	INT.COD	WIRESのSRG方式を使用するときに選択します。
	INT.MEM	WIRESのFRG方式を使用するときに選択します。

○ 19 INET C インターネットモードで使用するコード設定 (初期値: CODE 1)

選択項目	CODE 0~9 A~E(*), F(#)	インターネットモードで、送信開始時に出力されるDTMFコードを1コードだけ指定することができます。ダイヤルをまわすとコード(0~9, A~E(*), F(#))を1コードだけ選択することができます。
------	--------------------------	---

○ 20 INET M インターネットモードで使用するDTMFメモリーの設定

選択項目	-	WIRES以外のインターネットリンクで使用するDTMFコードを設定した、DTMFメモリーチャンネルを指定します。PTTを押しながらマイク口ホンの【P2】キー(MH42 _{66JS} 【P】キー)を押すと、ここで指定したDTMFメモリーチャンネルに設定されているDTMFコードが送出されます。
------	---	--

○ 21 KEY.MOD パネル面のKEY2設定 (初期値: KEY 1)

選択項目	KEY 1	左右独立したスイッチ動作になります(スイッチに印字してある動作)。
	KEY 2	右側のパネル面のスイッチをKEY2スイッチ動作に変更します(ディスプレイ右下に印字してある動作)。

○ 22 LOCK ロック機能の設定 (初期値: OFF)

選択項目	ON	各スイッチ類を動作しないようにロックします。
	OFF	ロック機能が解除されます。

○ 23 LOCKT PTTロックの設定 (初期値: OFF)

選択項目	BAND R	ディスプレイ右側の周波数帯を送信禁止にします。
	BAND L	ディスプレイ左側の周波数帯を送信禁止にします。
	BOTH	左右、両方の周波数帯を送信禁止にします。
	OFF	PTTロック機能を解除します。

セットモードの動作一覧表

○ 24 MIC 使用するマイクロホンの設定 (初期値: MH+48)

選択項目	MH+48	使用するマイクロホンが付属の“MH+48A6JA”の時に選択します。
	MH+42	使用するマイクロホンがオプションの“MH+42B6JS”の時に選択します。

※無線機をリセットした場合は、ご使用になるマイクに合った設定に変更してください。

○ 25 MUTE ミュート機能の設定 (初期値: OFF)

選択項目	TX	TX メインバンドで送信しているときに、サブバンドの音声は出力されません。
	RX	メインバンドに信号が入感しているときに、サブバンドの音声出力レベルを減らします。
	TX/RX	“TX”と“RX”のミュート機能が両方動作します。
	OFF	ミュート機能を解除します。

② 26 NAME メモリーの名前入力

選択項目	—	メモリーチャンネルに名前(メモリータグ)をつけます。 _ _ _ _
		<ol style="list-style-type: none"> メインバンドにし、[V/M]を押して名前を付けたいメモリーチャンネルを呼び出します。 [SET]を押して、セットモードにします。 ダイヤルツマミをまわして、26NAMEを選びます。 ダイヤルツマミを押して名前登録画面にします。 ダイヤルツマミをもう一度押して入力画面にします。 一文字目の“.”が点滅します。 ダイヤルツマミをまわして、メモリーチャンネルに付けたい名前の一文字目を表示させます。 ○ マイクロホンの [UP] スイッチを押すとカーソルの位置を一文字送ることができます。 ○ マイクロホンの [DWN] スイッチを押すとカーソルの位置を一文字前に戻すことができます。 ○ メインバンド側の [SCN] を押すと、点滅している文字を消去します。 ○ マイクロホンの PTT スイッチを押すと書き込み操作を解除します。 メインバンド側のダイヤルツマミを押すと、次に表示する文字を選択することができます。 操作 6. と操作 7. を繰り返して、名前を入力します (最大6文字)。 [SET]を押すと、メモリーの書き込みが終了します。 [SET]を0.5秒以上押すと、セットモードが終了します。

③ 27 PKT.SPД パケット運用時の通信速度(ボーレート)の設定 (初期値: 1200bps)

選択項目	1200 bps	パケット運用時の通信速度が1200bpsになります。
	9600 bps	パケット運用時の通信速度が9600bpsになります。

④ 28 PKT.RXB パケット通信で受信する周波数帯の設定 (初期値: MAIN)

選択項目	R-FIX	ディスプレイ右側の周波数帯をパケットの受信専用周波数帯として固定することができます。送信は設定に関係なくメインバンドで行います。
	L-FIX	ディスプレイ左側の周波数帯をパケットの受信専用周波数帯として固定することができます。送信は設定に関係なくメインバンドで行います。
	MAIN	メインバンドの周波数帯でパケットの送信・受信を行います。

セットモードの動作一覧表

- 29 PG P1 **[P1] キー(MH+42_{B6JS}では【ACC】)の動作変更(初期値: BAND)**
- 30 PG P2 **[P2] キー(MH+42_{B6JS}では【P】)の動作変更(初期値: VFO/MR)**
- 31 PG P3 **[P3] キー(MH+42_{B6JS}では【P1】)の動作変更(初期値: TONE)**
- 32 PG P4 **[P4] キー(MH+42_{B6JS}では【P2】)の動作変更(初期値: LOW)**

選択項目	SQL OFF	押ししている間スケルチが OFF になります。
	TCALL	※ 通常は選択しないでください。
	RPTR	レピーター運用時のシフト方向の切り換え。
	PRI	プライオリティ機能の ON/OFF。
	LOW	送信出力の切り換え, 0.5 秒以上押すとメモリーの名前 / 周波数表示の切り換え。
	TONE	ENC・ENC/DEC・DCSの切り換え。
	MHz	0.5 秒以内で押すと 1MHz ステップ, 0.5 秒以上押すと 10MHz ステップで周波数を一時的に変えられるようになります。
	REV	リバース機能, 0.5 秒以上押すとレピータモードの切り換え。
	HOME	ホームチャンネルの呼び出し, 0.5 秒以上押すとプライオリティ機能の ON/OFF。
	BAND	メインバンドの切り換え, 0.5 秒以上押すと VFO 周波数帯の切り換え。
	VFO/MR	VFO モードとメモリーモードの切り換え, 0.5 秒以上押すとスマートサーチの開始, またはメモリーバンクの選択。
SCAN	VFO(またはメモリー)モードのスキャンを開始します。 0.5 秒以上押すと, プログラムスキャンの動作選択(VFO モード時), メモリーチューン機能(メモリーモード時)。	

- 33 PUSH SW **左側 VOL ツマミのプッシュスイッチ設定(初期値: DX KEY)**

選択項目	DX KEY	左側の VOL ツマミを押すとスーパー DX 機能を ON/OFF することができます。
	IN KEY	左側の VOL ツマミを押すと WIRES のインターネットリンク機能を ON/OFF することができます。

- 34 RF SQL **RF スケルチの設定(初期値: OFF)**

選択項目	S-2	S メーターが “2” 以下の信号の音声は出力しません。
	S-5	S メーターが “5” 以下の信号の音声は出力しません。
	S-9	S メーターが “9” 以下の信号の音声は出力しません。
	S-FULL	S メーターが “フルスケール” 以下の信号の音声は出力しません。
	OFF	RF スケルチ機能が “OFF” になります。

- ⑥ 35 RPT.MOD **レピータシフト方向の設定(初期値: RPT.OFF)**

選択項目	RPT. -	レピータのシフト方向をマイナスにします。
	RPT. +	レピータのシフト方向をプラスにします。
	RPT.OFF	シフトなし。

- 36 SCAN **スキャンストップモードの設定(初期値: TIME)**

選択項目	TIME	スキャン停止後, 約 5 秒経過するとスキャンを再開します。
	BUSY	無信号状態が 1 秒以上続くとスキャンを再開します。

- ⑥ 37 SCAN M **スキップメモリー(MEM)と特定メモリー(MSM)の選択(初期値: MEM)**

選択項目	MEM	特定のメモリーチャンネルをスキャンする必要のないときに指定します。
	MSM	特定のメモリーチャンネルだけをスキャンしたいときに指定します。

セットモードの動作一覧表

㉓ 38 SHIFT シフト周波数の設定 (初期値: 144MHz帯 0MHz / 430MHz帯 5.00MHz)

設定項目	0 ~ 99.95MHz	レピーター運用時のシフト幅を 50kHz ステップで設定することができます。
------	--------------	--

㉔ 39 SKP.MSM スキップメモリー (MEM) と特定メモリー (MSM) の指定 (初期値: OFF)

選択項目	SKIP	メモリスキャン時にスキャンする必要のないメモリーチャンネルを指定します。
	MSM	メモリスキャン時にスキャンしたいメモリーチャンネルを指定します。
	OFF	SKIP と MSM の指定を解除します。

㉕ 40 STEP 周波数ステップの設定 (初期値: 144MHz帯 / 430MHz帯 20.0kHz)

設定項目	5/10/12.5/15 20/25/50 kHz	ダイヤルつまみやマイクロホンの【UP】【DWN】スイッチを操作したときの周波数変化量を変更することができます。
------	------------------------------	---

㉖ 41 SPCONT 外部スピーカーから出力させる音声の選択 (初期値: EXT)

選択項目	INT.EXT	内蔵スピーカーとEXT SP に接続した外部スピーカーから音声が出力されます。
	INT	内蔵スピーカーから音声が出力されます。
	EXT	EXT SP に接続した外部スピーカーから音声が出力されます。(未接続時は内部スピーカーから音声が出力されます。)
	OFF	内蔵スピーカー / 外部スピーカーどちらのスピーカーからも音声が出力されません。

㉗ 42 TONE F トーン周波数の設定 (初期値: 88.5Hz)

設定項目	67 ~ 254.1Hz	トーンスケルチ運用時のトーン周波数を選択することができます。
------	--------------	--------------------------------

㉘ 43 TONE M トーンスケルチ / DCS の選択 (初期値: OFF)

選択項目	ENC	トーン送出のみを行います。
	ENC.DEC	トーンスケルチを ON にします。
	DCS	デジタルコードスケルチ (DCS) を ON にします。
	OFF	トーン送出, トーンスケルチとも OFF にします。

㉙ 44 TOT タイムアウトタイマー (TOT) の設定 (初期値: 6 MIN (分))

選択項目	1 ~ 30 MIN	受信状態に戻るまでの時間を 1 分単位で設定できます。
	OFF	TOT 機能が OFF になります。

㉚ 45 VFO.TR VFO トラッキング機能の設定 (初期値: OFF)

選択項目	ON	メインバンドのダイヤルをまわすことにより, メインバンドとサブバンドの周波数が同時に変化します。サテライト通信などに使用すると便利です。
	OFF	VFO トラッキング機能が OFF になります。

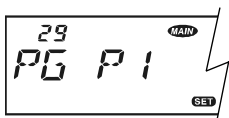
㉛ 46 WID.NAR 送受信 WIDE/NARROW の設定 (初期値: WIDE)

選択項目	NARROW	送信変調度と受信帯域幅が通常の約半分になります。
	WIDE	通常の送信変調度と受信帯域幅になります。通常は, この位置で使用してください。

オプションのMH-42B6JSを使用する

オプションのマイク口ホン MH-42B6JS の各キーやスイッチは、下図の動作を行います。
 なお、【ACC】【P】【P1】【P2】を押したときの動作を、別の動作に変更することができます。

1. 【SET】を押します。
2. メインバンドのダイヤルツマミをまわして、変更したいキーに対応する項目（下表参照）を選びます。
 （例：【ACC】キーの動作を変更したい場合は“29 PG P1”を選択します。）



変更可能なキー	初期設定値	選択項目
【ACC】	BAND	29 PG P1
【P】	V/M	30 PG P2
【P1】	TONE	31 PG P3
【P2】	LOW	32 PG P4

3. メインバンドのダイヤルツマミを押します。

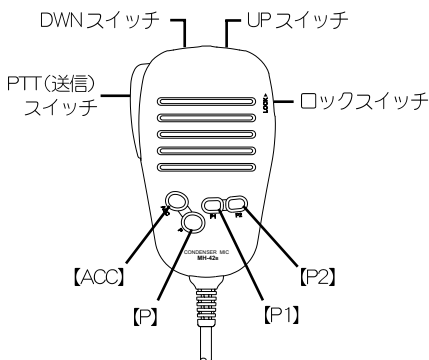
- オプションのMH-42B6JSを使用する際は、セットモード“24 MC”の設定を“MH-42”に変更してください。

4. メインバンドのダイヤルツマミをまわして、変更したい機能を選びます（下表参照）。



29 PG P1 を“BAND”に
 選択した場合

5. 【SET】を0.5秒以上押して終了です。



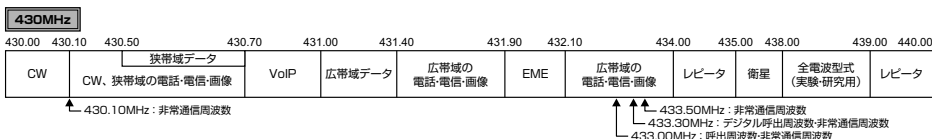
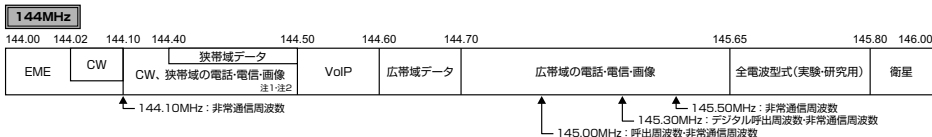
割り当てることができる動作

	0.5秒以下押し	0.5秒以上押し
SQLOFF	押ししている間スケルチが“OFF”になります	-----
TCALL	※通常は選択しないでください	-----
RPTR	レピーター運用時のシフト方向の切り換え	-----
PRI	プライオリティ機能のON/OFF	-----
LOW	送信出力の切り換え	メモリーの名前表示 / 周波数表示切り換え
TONE	ENC・ENC/DEC・DCSの切り換え	-----
MHz	一時的に1MHzステップで周波数を変えることができます	一時的に10MHzステップで周波数を変えることができます。
REV	リバーブ機能 ※レピーター運用時やセミデュプレックスメモリーで運用中、送受信周波数を入れ換える機能です。	レピーターシフト方向の切り換え RPT.-・RPT.+・OFFを選択します
HOME	ホームチャンネルの呼び出し	プライオリティ機能
BAND	メインバンド左側 / 右側切り換え	VFO 周波数帯の切り換え
VFO/MR	VFO / メモリーモードの切り換え	VFOモードのときはスマートサーチスキャンが動作します。メモリーモードのときはメモリーバンクを選択することができます
SCAN	VFO(またはメモリー)モードのスキャンを開始します。	VFOモードのときはプログラマブルスキャンの動作を選択することができます。 メモリーモードのときはメモリーチューン機能が動作します。

バンド区分

アマチュア業務に使用する電波の型式および周波数の使用区分

平成27年1月5日より、アマチュアバンドの使用区分が下記に示すように施行されましたので、このルールに従って運用してください。



狭帯域：電波の占有周波数帯幅が 3kHz 以下(A3E を除く)のもの。

広帯域：電波の占有周波数帯幅が 3kHz を超えるもの。

注 1 144.10MHz から 144.20MHz までの周波数は、外国のアマチュア局と月面反射通信にも使用できる。この場合の電波の占有周波数帯幅の許容値は、3kHz 以下のものに限る。

注 2 144.30MHz から 144.50MHz までの周波数は、国際宇宙ステーションとの交信に限って、広帯域の電話、電信および画像通信にも使用することができる。

付 録

アマチュア無線局免許申請書の書き方

本機は技術基準適合機ですので、免許申請書に技術基準適合証明番号(FT-8800Hは002KN399, FT-8800は002KN400)を記入することにより、記入の一部(次ページに記載してある記入例の“”部分)の記入を省略することができます。総務省の「電子申請・届出システム Lite」で申請する場合は、技術基準適合証明番号欄の「区分」に「工事設計認証番号」を選択し、「記号部」002KN、「番号部」399(FT-8800Hの場合)、400(FT-8800の場合)を入力してください。

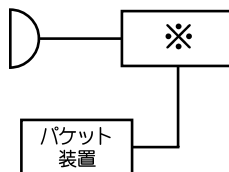
ただし、RTTY用のTUやパケット通信のTNCなどの付属装置を接続して申請する場合には、下記に示す記入例を参考にして必要事項を記入し、保証認定を受けて申請してください。技術基準適合証明番号は、本体底面に貼り付けてある“技術基準適合証明ラベル”に記載してあります。

免許申請書記入時のご注意

- FT-8800H(50W)でアマチュア局の免許を申請する場合には、第三級アマチュア無線技士以上の資格が必要になります。
- 1200bpsのパケット(F2D)の免許も申請することができます。この場合、『発射可能な電波の型式、周波数の範囲』の欄に“F2D”を追記するとともに、付加装置の諸元も併せて記入し、保証認定で免許申請を行います。
- 9600bpsのパケット(F1D)の免許も申請することができます。この場合、『発射可能な電波の型式、周波数の範囲』の欄に“F1D”を追記するとともに、付加装置の諸元も併せて記入し、保証認定で免許申請を行います。

パケット通信のTNCを接続する場合の記入例

- 『送信機系統図』に、右図に示す項目を記入します。
※の部分には、『技術基準適合証明番号(FT-8800Hは002KN399, FT-8800は002KN400)』を記入します。
- 『アマチュア局の無線設備の保証認定願』に、次の項目を記入します。



- ※ 1 : AFSK/GMSK ※ 4 : $\pm 500\text{Hz}/\pm 2.4\text{kHz}$ 以下
- ※ 2 : 1200bps/9600bps ※ 5 : AX.25 プロトコル準拠
- ※ 3 : 1700Hz/ー ※ 6 : 電波型式 F2D/F1D

データ 通信装置 (パケット)	1 方式	※ 1	第 1
	2 通信速度	※ 2	
	4 副搬送波周波数(副搬送波を用いる方式の場合のみ。)	※ 3	
	5 最大周波数偏移または位相偏位量(副搬送波を用いる場合は、副搬送波のもの。)	※ 4	
	9 符号の構成	※ 5	
	10 装置出力の最高周波数(副搬送波を用いる方式の場合のみ。)	※ 6	
	11 その他		送信機

上記の記入例は一例です。お手持ちのTNCの取扱説明書を参考に記入ください。

アマチュア無線局免許申請書の書き方

無線局事項書及び工事設計書

1 申請（届出）の区分 <input type="checkbox"/> 開設 <input type="checkbox"/> 変更 <input type="checkbox"/> 再免許		2 免許の番号		A第	号	3 呼出符号	※ 整理番号	4 欠格事由 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無					
5 氏名 申請又は届出の氏名	6 住所 〒フリガナ 都道府県一市区町村コード 郵便番号					7 電話番号		国籍					
	8 希望する周波数帯 希望する周波数帯 <input type="checkbox"/> 1.9M <input type="checkbox"/> 3.5M <input type="checkbox"/> 3.8M <input type="checkbox"/> 7M <input type="checkbox"/> 10M <input type="checkbox"/> 14M <input type="checkbox"/> 18M <input type="checkbox"/> 21M <input type="checkbox"/> 24M <input type="checkbox"/> 28M <input type="checkbox"/> 50M <input checked="" type="checkbox"/> 144M <input checked="" type="checkbox"/> 430M					9 無線従事者免許証の番号		10 無線局の目的 アマチュア業務用					
11 無線設備の設置場所又は常置場所 フリガナ 都道府県					12 無線設備の型式並びに希望する周波数帯及び空中線電力 希望する周波数帯 <input type="checkbox"/> 3.5W <input type="checkbox"/> 3.8W <input type="checkbox"/> 7W <input type="checkbox"/> 10M <input type="checkbox"/> 14M <input type="checkbox"/> 18M <input type="checkbox"/> 21M <input type="checkbox"/> 24M <input type="checkbox"/> 28M <input type="checkbox"/> 50W <input checked="" type="checkbox"/> 144M <input checked="" type="checkbox"/> 430M					13 変更する欄の番号 移動する局の場合は、「工事設計書」の欄に記載している送信機の台数		14 呼出符号	

※ 整理番号

144M, 430Mに✓印をつけてください。

第三級アマチュア無線技士以上の方は、3VFに✓印をつけてください。
第四級アマチュア無線技士の方は、4VFに✓印をつけてください。

第三級アマチュア無線技士以上の方は50Wを記入してください。
第四級アマチュア無線技士の方は20Wを記入してください。

技術基準適合証明番号(002KN399)を記入した場合は、記入する必要はありません。

「技術証明」で免許申請を行う場合は、技術基準適合証明番号(002KN399)を記入してください。

■第三級アマチュア無線技士以上のかたが申請する場合

装置の区別	変更の種類	技術基準適合証明番号	発射可能な電波の型式及び周波数の範囲	変調方式	終段管 名称 额定電圧	定格出力 (W)
第 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更	002KN399	F3E, F2D, F2A 144MHz帯, 430MHz帯	リアクタンス変調	RD70HV x 1 13.8 V	144MHz 50 430MHz 35
第 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更					V
第 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更					V

技術基準適合証明番号(002KN399)を記入した場合は、記入する必要はありません。

「技術証明」で免許申請を行う場合は、技術基準適合証明番号(002KN399)を記入してください。

■第四級アマチュア無線技士以上のかたが申請する場合

装置の区別	変更の種類	技術基準適合証明番号	発射可能な電波の型式及び周波数の範囲	変調方式	終段管 名称 额定電圧	定格出力 (W)
第 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更	002KN400	F3E, F2D 144MHz帯, 430MHz帯	リアクタンス変調	RD70HV x 1 13.8 V	20
第 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更					V
第 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更					V

技術基準適合証明番号(002KN400)を記入した場合は、記入する必要はありません。

「技術証明」で免許申請を行う場合は、技術基準適合証明番号(002KN400)を記入してください。

第 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更	使用するアンテナの型式を記入してください。	周波数測定装置の有無	<input type="checkbox"/> 有 (誤差0.025%以内) <input type="checkbox"/> 無
第 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更			
送信空中線の型式				
送付図面	<input type="checkbox"/> 送信機系統図	その他の工事設計	<input checked="" type="checkbox"/> 法第3章に規定する条件に合致する。	

✓印をつけてください。

故障かな？と思ったら

■電源が入らない

- ◆電源は接続されていますか。ヒューズは切れていませんか？

電源ケーブルの接続とヒューズを確認してください。

- ◆電源電圧は正しいですか？

電源電圧が約17V以上になると高電圧プロテクトが動作し、自動的に電源が入らなくなります。電源電圧が直流13.8V±15%の範囲内であるか確認してください。

■音が出ない

- ◆トーンスケルチ機能やDCS機能が動作していませんか？

セットモード“43 TONE M”を“OFF”にあわせてください(49ページ)。

- ◆SQLツマミをまわしすぎていませんか？

右にまわしすぎている場合、弱い信号の音声が出力されない場合があります。

- ◆外部スピーカーの接続は間違えていませんか？

インピーダンスが4Ω～16Ωのスピーカーを接続してください。

- ◆外部スピーカーの設定を間違えていませんか？

セットモード“41 SPCONT”の設定を確認してください(49ページ)。

■電波が出ない

- ◆電源電圧や電流容量が不足していませんか？

直流13.8V、電流容量15A(FT-8800は10A)以上の電源が必要です。

- ◆PTTロック機能が動作していませんか？

セットモード“23 LOCKT”を“OFF”にあわせてください(46ページ)。

- ◆シフト周波数がオフバンドになっていませんか？

セットモードの“38 SHIFT”を確認し、アマチュアバンド以外で送信しようとしていないかを確認してください(49ページ)。

■マイクロホンが正しく動作しない

- ◆設定はあっていますか？

セットモードの“24 MIC”を確認し、ご使用になるマイクロホンにあった設定に変更してください(47ページ)。

同時受信時の周波数の組み合わせによっては、内部発振器の高周波による内部ビートなどの影響で受信できない場合がありますが、故障ではありません(下記計算式参照：nは任意の整数)。

- (メインの受信周波数 ± 45.05 MHz) × n1 - (サブの受信周波数 ± 47.25 MHz) × n2
= メインのIF周波数または、サブのIF周波数
- 左側の144 MHz送信周波数 - 105.3 MHz = サブのIF周波数 またはサブの第2IF周波数イメージ
- 144 MHz送信周波数 × n1 - (430 MHz受信周波数 - 47.25 MHz) × n2
= サブのIF周波数 またはサブの第2IF周波数イメージ
- 144 MHz送信周波数 × n1 - (430 MHz受信周波数 - 47.25 MHz) × n2 + 11.7 MHz
= サブのIF周波数 またはサブの第2IF周波数イメージ
- 430 MHz送信周波数 × n1 - (144 MHz受信周波数 + 47.25 MHz) × n2
= サブのIF周波数 またはサブの第2IF周波数イメージ

アフターサービスについて

◎ 保証期間はご購入の日より1年です。

本製品には保証書が添付されています。ご購入いただいた日から1年以内に、取扱説明書に従った正常な使用状態で故障した場合には、無料で修理をお引き受けします。

◎ 保証書は大切に保管してください。

保証書を紛失しますと、保証期間中に発生した故障でも、保証期間が過ぎたものとして有償扱いにさせていただきますのでご了承ください。

また、販売年月日・販売店名等の必要事項が記入していない保証書も無効扱いにさせていただきますので、ご購入いただきました販売店名・ご購入年月日等が正しく記入されていることをご確認のうえ、大切に保管してください。

◎ 保証期間が過ぎた後に故障した場合は、ご相談ください。

修理により機能が維持できる場合には有償で修理させていただきますので、ご購入いただきました販売店または当社カスタマーサポートにご相談ください。

◎ 梱包箱も大切に保管してください。

修理や点検のために本製品を運搬する場合には、運搬中の事故やトラブルを防止するため、梱包箱を使用して運搬してください。

製品の改良のため、取扱説明書の図面などが一部製品と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

本製品または他の当社製品についてのお問い合わせは、当社カスタマーサポート宛にお願いいたします。

また、その際には、必ずセットの製造番号(本体底面に貼ってある銘板に記載してあります)を併せてお知らせください。なお、お手紙をいただくときには、お客様のご住所・ご氏名を忘れずにお書きください。

定 格

一般定格

送信周波数：144MHz～146MHz, 430MHz～440MHz
受信周波数：108MHz～520MHz, 700MHz～999.99MHz
周波数ステップ：上記範囲で 5 / 10 / 12.5 / 15 / 20 / 25 / 50kHz
電波型式：F3E, F2D
アンテナインピーダンス：50 Ω不平衡, M型接栓 アンテナデュプレクサー内蔵
周波数安定度：± 5ppm(−0°C ~ +60°C)
使用温度範囲：−20°C ~ +60°C
電源：DC 13.8V ± 15% マイナス接地
消費電流：受信無信号時 約0.5A
送信定格出力時
FT-8800H 約8.5A(144MHz帯), 約8.0A(430MHz帯)
FT-8800 約6.0A
ケース寸法：140(幅)×41.5(高さ)×168(奥行)mm(突起物を含まず)
重量：約1.0kg

送信部

送信出力：FT-8800H
50 W(35 W : 430MHz帯)/20 W/10 W/5 W
FT-8800
20 W / 10 W/ 5 W/1 W

変調方式：リアクタンス変調
最大周波数偏移：± 5kHz(± 2.5kHzに設定変更可能)
不要輻射強度：−60dB以下
占有周波数帯域幅：16kHz以内
変調歪：3%以下(70%変調時)
マイクロホンインピーダンス：2k Ω
DATA入力端子インピーダンス：10k Ω

受信部

受信方式：ダブルコンバージョンスーパーヘテロダイン
中間周波数：45.05MHz/450kHz(メインバンド)
47.25MHz/450kHz(サブバンド)
受信感度：0.2μV以下(@12dB SINAD)(スーパーDX機能OFF時)
スケルチ感度：0.16μV
通過帯域幅：8kHz以上 / −6dB(FM/N時 6kHz/ −6dB)
選択度：30kHz以下 / −60dB
低周波出力：2W以上(8 Ω負荷THD 5%時)
低周波負荷インピーダンス：4 Ω～16 Ω(内蔵SP 8 Ω)

※定格値は常温・常圧時の値です

索引

数字

1200bps で/パケット通信をする	42
1MHz ステップ	10, 15
2波同一バンド受信	14
430MHz帯のレピーターを使用する	15
9600bps で/パケット通信をする	42

A

ALL RESET	15
ANT 端子	7, 13
APO 機能	37
ARS 機能	31
ARTS 機能	29

C

CLONE START	41
CW ID の設定	40

D

DATA 端子	13, 41
DCS 機能	28
DCS コードサーチ機能	28
DTMF 機能	39
DTMF コードの送出	39

H

HM キー	11
HOME プライオリティ	36
HYPER RESET	23

K

KEY2 操作の切り換え	34
--------------	----

L

LOW キー	11
--------	----

M

M-ONLY MODE	34
MAIN	14
MEMORY RESET	17
MHz キー	34
MH4286.5 を使用する	50
MMB-36 の取り付けかた	7

P

P1, P2, P3, P4 キー	13, 33
PMS 機能	25
PTT ロック機能	37
P キー	13, 33

R

REV キー	34
RF スクルチ機能	32

S

S-DX	15
SCN キー	11
SETMOD RESET	44
SET キー	11
SQL ツマミ	10
SUB キー	34

T

TONE キー	34
TOT 機能	38

V

V/M キー	11
VOL ツマミ	10

W

WIRES で交信する	30
-------------	----

ア

アーツ機能	29
相手局と交信できる範囲にいるかを確認する	29
アフターサービスについて	55
アマチュア無線局免許申請書の書き方	52
安全上のご注意	4

オ

オートパワーオフ機能	37
オートマチックレピーターシフト機能	31
オートモード (ハイパーメモリー)	22
オールリセット	15
お使いになる前に	6
オプション	6
音量を調節する	14

カ

各種の便利な機能	26
----------	----

キ

技術基準適合証明番号	50, 51
基本操作	14

ク

クローン機能	41
--------	----

コ

故障かな? と思ったら	54
-------------	----

シ

指定メモリスキャン設定	35
車載で使用する場合 (例)	7
周波数ステップを変える	32
周波数帯を切り換える	14
周波数をあわせ受信する	15

索引

受信感度をアップする	15
信号が入感する周波数を探して記憶する	26
ス	
スーパー DX 機能	15
スイッチ類をロックさせる	37
スキヤンスキップ設定	35
スキヤン操作	24
スキヤンをする	24
スケルチを調節する	14
スマートサーチ機能	26
セ	
設置と接続	7
セットモード	43
セットモード一覧表	43
セットモードの動作一覧表	44
セットモードリセット	44
セパレーションキット	
YSK-8900 の取り付けかた	8
セミデュプレックスメモリー	19
ソ	
送信をする	15
タ	
ダイヤルツマミ	10
プライオリティ	36
タイム・アウト・タイマー機能	38
テ	
定 格	56
ディスプレイの説明	12
ディマー調整	38
電源を入れる	14
電波を発射する前に	3
ト	
トーン周波数サーチ機能	27
トーンスケルチ機能	27
同時受信	14
同時送受信	15
特 長	3
特定の局と交信する	27, 28
ナ	
内部 / 外部スピーカーの設定	40
ハ	
ハイパーメモリー	22
ハイパーメモリーキー	10
ハイパーメモリーに運用状態を書き込む	22
ハイパーメモリーの消去	23
ハイパーメモリーリセット	23

ハイパーメモリーを呼び出す	23
背面の説明	13
バケット通信	42
パネル面の説明	10
バンド区分	51
ヒ	
ピープ音の“ON/OFF”	32
フ	
付属品	2
プライオリティ機能	36
付 録	50
プログラマブルキー機能	33
プログラマブルスキヤン機能	25
プログラマブルメモリースキヤン機能	25
ホ	
ホームチャンネルの周波数を変える	18
ホームチャンネルを呼び出す	18
マ	
マイク端子	7
マイクロホンの説明	13
マニュアルモード (ハイパーメモリー)	22
ミ	
ミュート機能	38
メ	
メインバンドを選択する	14
メモリーオンリーモード	34
メモリー操作	16
メモリーチャンネルに名前を付ける	16
メモリーチューン機能	19
メモリーに書き込む	16
メモリーの消去	19
メモリーバンク	20
メモリーバンクリンクスキヤン	24
メモリープライオリティ	36
メモリーリセット	17
メモリーを呼び出す	18
モ	
モバイルブラケットの取り付けかた	7
ヨ	
より高度な運用機能	30
ワ	
ワイヤズで交信する	30

YAESU

The radio

本製品または他の当社製品についてのお問い合わせは、お買い上げいただきました販売店または、当社カスタマーサポートにお願いいたします。

八重洲無線株式会社 カスタマーサポート

電話番号 0120-456-220

受付時間 平日 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 18:00

©2016 八重洲無線株式会社

無断転載・複写を禁ず

1608S-CM

八重洲無線株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川2-5-8 天王洲パークサイドビル



E H O 1 8 M O 1 1